実務経験のある教員による科目

こども学科

知の技術	長沼,関根,岩崎,小林,大多和,鈴木,藤田,一色	1
音楽Ⅰ	齊藤,一村,佐藤(千),佐藤(良),鈴木,須田,舘岡,高梨	3
音楽Ⅱ	宮澤,一村,佐藤(千),佐藤(良),鈴木,須田,舘岡,高梨	5
音楽Ⅲ	宮澤,佐藤(良),舘岡,松山,山口(茜),高梨	7
音楽Ⅳ	齊藤　淳子・宮澤多英子	9
保育内容（表現・音楽）	齊藤　淳子	11
保育内容（表現・造形）Ⅰ	木谷　安憲	13
保育内容（人間関係）	岩崎　桂子	15
図画工作	木谷　安憲	17
子どもと人間関係	岩崎　桂子	19
子どもと表現	木谷安憲・齊藤淳子・宮澤多英子	21
初等教科教育法（音楽）	齊藤　淳子	23
初等教科教育法（図画工作）	木谷　安憲	25
乳児保育Ⅰ	関根　久美	27
乳児保育Ⅱ	関根　久美	29
特別支援論Ⅰ(対象理解)	井上　昌士	31
特別支援論Ⅱ(乳・幼児への支援方法)	井上　昌士	33
特別支援論Ⅲ(児童への支援方法)	井上　昌士	35
教職・保育概論(教育制度等を含む)	小林　佳美	37
教育実習指導（事前事後）（幼稚園）	木谷,関根,佐々木,小林,大多和	39
教育実習Ⅰ（幼稚園）	こども学科専任教員	41
教育実習Ⅱ（幼稚園）	こども学科専任教員	43
教育実習指導（事前事後）（小学校）	長沼　秀明,一色　翼	45
教育実習Ⅰ（小学校）	こども学科専任教員	47
教育実習Ⅱ（小学校）	こども学科専任教員	49
保育実習指導Ⅰ（事前事後）	岩崎,宮澤,小林,西内,大多和,藤田	51
保育実習指導Ⅱ（事前事後）	井上,小山内,齊藤,佐藤,大多和	53
保育実習Ⅰ（保育所）	こども学科専任教員	55
保育実習Ⅱ（施設）	こども学科専任教員	57
保育実習指導Ⅲ・Ⅳ（事前事後）	井上,佐藤,岩崎,宮澤,小林,西内	59
保育実習Ⅲ（保育所）	こども学科専任教員	61
保育実習Ⅳ（施設）	こども学科専任教員	63
保育・教職実践演習（幼・小）	長沼,関根,岩崎,小林,西内,大多和,一色	65

知の技術　～教員・保育士養成基礎講座～	長沼･関根･岩﨑･小林･大多和･藤田･一色

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	前期	2	必修	－	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

教員や保育士を目指す学生が初年次に身につけるべき以下の内容を講義する。
・大学生としての学びの技術と大学で履修する科目内容への理解（川短での学びを深める）
・社会人として求められる基本的なスキル（コミュニケーション力とプレゼンテーション力を磨く）

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス―大学での学び方を身に着けよう
第 2 回	川短での学びの概要と受講に際してのルールを知ろう（学生としての学び①）
第 3 回	メディアセンターの機能を知り活用しよう（学生としての学び②）
第 4 回	インターネット（SNS を含む）の有効な活用を考えよう（学生としての学び③）
第 5 回	ノートの取り方とレポートの書き方を身につけよう（学生としての学び④）
第 6 回	教員・保育士を目指すための心構えを確認しよう（実習にむけての学び❶）
第 7 回	実習に参加するためのマナーを身につけよう（実習にむけての学び❷）
第 8 回	手紙の書き方を身につけよう（実習にむけての学び❸）
第 9 回	人前に立って話す準備をしよう（実習にむけての学び❹）
第 10 回	「教育・保育学演習」の授業（ゼミ活動）について知ろう（学生としての学び⑤）
第 11 回	「教育・保育学演習」の授業（ゼミ活動）を決めよう（学生としての学び⑥）
第 12 回	個人調書を書こう（実習にむけての学び❺）
第 13 回	模擬保育に挑戦しよう（実習にむけての学び❻）
第 14 回	模擬保育に挑戦しよう（実習にむけての学び❼）
第 15 回	まとめ―「かわたんシート」を使って授業の振り返りをしよう（学生としての学び⑦）

予 習 ・ 復 習

・予習：漢字学習を授業回ごとに指示されたペースで進める。
・復習：各回の授業内容に基づき、具体的に指示する。

履修上の注意

本授業は大学での学びの基礎となる事項であり、免許・資格取得と密接に関連した重要事項を扱うため、すべての回に出席し、求められる提出物を期限内に提出する必要がある。配布物はすべてファイルして保管しておくこと。

さらに、1 年次後期に開講する「教育実習指導（事前事後）幼稚園／小学校」「保育実習Ⅰ・Ⅱ（事前事後）」は、本授業の内容を修得済であることを前提に進められるので、実習参加予定者は特に注意が必要である。

また、5 回・10 回・15 回の授業時に「漢字テスト」を行うので、授業回毎に伝える学習案内のペースに従って自習を進めること。

遅刻・早退３回で欠席１回の扱いとする。

到 達 目 標

2年間の大学生活を有意義なものにするために必要な学びの態勢を整え、教員や保育士を目指すうえで不可欠な社会常識とマナー、および社会人としての基本的なスキルを身につける。
上記を踏まえ、具体的には以下5項目の知識や資質・能力の習得を目指す。
①スタディスキル（ノートテイキング、発言、グループ内での協働、講義内容の理解、ならびに期限内に課題提出ができる）
②スチューデントスキル（メールや電話、手紙等を使って、マナーを踏まえた報告・連絡・相談ができる）
③文章表現の基礎力（正しい漢字・文法により的確な文章作成ができる）
④情報リテラシー（メディアセンター、インターネット等を活用して多様な情報を収集し、モラルに則って活用することができる）
⑤保育・教育実践の基礎力（保育の観察・記録の基本を理解し、テーマに沿った保育実技のプレゼンテーションができる）

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
スタディスキル（20%）	ノートテイキング、発言、グループ内での協働に積極的であり、すべての課題が期限内に提出され、講義内容の理解が十分に行われている。	ノートテイキング、発言、グループ内での協働ができており、すべての課題が期限内に提出され、概ね講義内容が理解されている。	すべての課題が期限内に提出され、概ね講義内容が理解されているが、ノートテイキング、発言、グループ内での協働に積極性・主体性が求められる。	概ねの課題は期限内に提出されたが、一層の講義内容・意図の理解が必要である。	課題の提出が期限内に提出されておらず、講義内容・意図の理解が不十分である。
スチューデントスキル（20%）	メールや電話、手紙等を使って、適切なマナーを踏まえ、滞りなく報告・連絡・相談ができる。	メールや電話、手紙等を使って、一定のマナーを踏まえた報告・連絡・相談ができる。	メールや電話、手紙等を使って、報告・連絡・相談ができるが、一般的なマナーの理解を深める必要がある	メールや電話、手紙等を活用できるが、滞りなく報告・連絡・相談する態度を習得する必要がある。	報告・連絡・相談の必要性を理解し、少なくともメールを適切に活用するスキルを習得する必要がある。
文章表現の基礎力（20%）	正しい漢字・文法を使って、的確な文章作成ができる。	正しい漢字・文法を使って、他者が理解できる文章の作成ができる。	他者が理解できる文章の作成はできるが、正しい文法、漢字・語彙の使用に努める必要がある。	辛うじて他者が理解できる文章を作成できるが、正しい文法・漢字の習得が求められる。	他者が理解できる文章を作成するスキル、および正しい文法・漢字の習得が求められる。
情報リテラシー（20%）	メディアセンター、インターネット等を活用して多様な情報を収集し、適切な情報を取捨選択したうえで、モラルに則って活用することができる。	メディアセンター、インターネット等を活用して多様な情報を収集し、モラルに則って活用することができる。	メディアセンター、インターネット等を活用して多様な情報を収集できるが、情報モラルへの理解が必要である。	メディアセンター、インターネット等を活用できるが、必要な情報を収集する方法を習得する必要がある。	メディアセンター、インターネット等を適切に活用する方法を理解する必要がある。
保育・教育実践の基礎力（20%）	保育の観察・記録の基本を十分に理解し、基本を踏まえて、魅力的に保育実技のプレゼンテーションができる。	保育の観察・記録の基本を理解し、テーマに沿った保育実技のプレゼンテーションができる。	保育の観察・記録の基本を概ね理解しているが、基本を踏まえた保育実技の方法を理解し、実践するスキルの習得が必要である。	保育の観察・記録の理解度を判断する課題の提出、または保育実技のプレゼンテーションの、いずれかが行われなかった。	保育の観察・記録の理解度を判断する課題の提出、および保育実技のプレゼンテーションのどちらも行われなかった。

評価方法

漢字テストおよび課題レポート　50%　　授業時の提出物　30%　　発表　20%

テキスト

・教科書名：『【改訂2版】これだけは知っておきたい 保育の基本用語』
・著者名：長島和代（編）　石丸るみ・亀﨑美沙子・木内英実（著）
・出版社名：わかば社
・出版年：2021年(ISBN: 978-4907270346)
＊『実習のてびき』は毎時、必ず参照できるようにすること。他に、必要に応じて資料を配布する。

音楽Ⅰ ～保育･教育現場における音楽活動を行うための基礎理論と実践～	齊藤・一村・佐藤(千)・佐藤(良) 舘岡・荻原・髙梨

※実務経験のある教員による授業科目

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	必修	－	選択必修	必修

授業概要

教員・保育者として，子ども達に楽しい音楽あそびを展開するために必要な音楽の基礎的な能力の育成を目指す。受講者を２グループに分け，クラス授業（45 分）とピアノの個人レッスン（45 分）を 並行して行う。クラス授業では，音楽の基礎的な理論（楽典）とピアノ伴奏のための基礎演習，コード伴奏法などについて，小・中学校教員としての実務経験を生かして指導する。個人レッスンでは， 教育・保育実習や保育現場において使用頻度の高い歌唱曲や生活の歌（実習曲）を必修課題とし，ハ長調のコード伴奏を中心に，子ども達が楽しく歌うための伴奏技術を身に付ける。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	ガイダンス，童謡の歌唱及びリズム唱	個人レッスン
第 2 回	ピアノの演奏の基礎①・楽典①（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 3 回	Ⅰ・V7 の和音による伴奏を様々な調に移調することで響きの違いを感じ取る，楽典④	個人レッスン
第 4 回	ピアノ演奏の基礎②・楽典③（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 5 回	ピアノ演奏の基礎③・楽典④（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 6 回	ピアノ演奏の基礎④・楽典⑤（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 7 回	「かえるのがっしょう」Ⅰ・V_7 の全調課題試験①（ピアノ演奏の基礎）	個人レッスン
第 8 回	「かえるのがっしょう」Ⅰ・V_7の全調課題試験②（ピアノ演奏の基礎），楽典⑥	個人レッスン
第 9 回	Ⅰ・Vの和音による伴奏を様々な調に移調することで響きの違いを感じ取る，楽典⑦	個人レッスン
第 10 回	ピアノ演奏の基礎⑤・楽典⑧（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 11 回	ピアノ演奏の基礎⑥・楽典⑨（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 12 回	ピアノ演奏の基礎⑦・楽典⑩（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 13 回	ピアノ演奏の基礎⑧・楽典⑫（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 14 回	「メリーさんの羊」Ⅰ・Vの全調課題試験及び楽典のまとめ	個人レッスン
第 15 回	楽典試験	個人レッスン

予習・復習

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには，日々の練習が欠かせません。個人レッスンの一人あたりの時間は短いですので，必ず練習をして臨むこと。練習をしていない状態では，個人レッスンを受ける資格がないに等しいと思いましょう。

・復習：合格した課題曲はいつでも演奏できるよう，レッスン後も継続して練習すること。さらに，理論については，かなり難しい内容もありますので，授業内で理解できない場合は積極的に質問し，しっかりと理解できるよう努めること。

履修上の注意

・卒業必修科目及び保育士資格取得の必修科目である。
・クラス授業は音楽室，個人レッスンはレッスン室でグループレッスンを行う。
・「クラス授業」「個人レッスン」のどちらかしか出席していない場合は欠席扱いとなるので注意すること。また，遅刻３回で１欠席扱いとする。
・音楽室及び個人レッスン室の使用マナーを守ること（飲食厳禁など遵守事項を守る）。

到 達 目 標

・音楽に関する基礎的な知識を理解する。
・教育・保育実習や保育現場での実践に対応できる力を身に付ける。
・子ども達自らが児童文化財を楽しむ体験を支えるための音楽的技能を身に付ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
楽典の理解度（30%）	内容をしっかりと理解できており，困っている人が理解できるよう解説することができる。	説明内容をほぼ全て理解できている。	説明を聞いてすぐは理解できているが，時間が経つとあやふやになっている。	小学校音楽で学んできた内容の振り返りは理解できているが，調などの難しい内容の理解は不足している。	音符を読むことができず，小学校音楽で学んできた内容の振り返りも理解できていない。
ピアノの技能①全調課題Ⅰ・V_7（10%） ピアノの技能②全調課題Ⅰ・V（10%）	どの調もスムーズに，音楽的に表現しながら弾くことできる。	どの調もスムーズに弾くことができる。	弾き始めるまでに考える時間が長く，時々躓くが最後まで弾くことはできる。	躓きながら弾くことはできるが，間違いが多く，曲として成立していない。	全調課題の意味が理解できていないため，全く弾くことができない。
ピアノの技能③弾き歌い（30%）	オリジナル伴奏による弾き歌いを，歌，ピアノともに音楽的に工夫をしながら表現することができている。	コード伴奏による弾き歌いを，歌，ピアノともにしっかり演奏することができ，所々，工夫することができる。	所々，躓くが，コード伴奏による弾き歌いができている。歌声はか細く，伴奏に消されることがある。	コード伴奏による弾き歌いは躓きがかなり多く，途中から歌が消え，ピアノのみの演奏になっている。	コード伴奏で弾いているが躓きが非常に多く，曲の流れが止まる。弾き歌いの意味が理解できていない。
学習意欲（20%）	必修課題は早々に終わらせ，積極的にレパートリーを増やしている。課題は期日内に全て提出している。	必修課題はただ弾くだけでなく，伴奏の方法や表現の工夫をしている。課題は期日内に全て提出している。	期日までに必修課題を終わらせることはできたが，期日ギリギリである。課題は概ね期日内に提出している。	期日までに終わらなかった必修課題が２～３曲ある。課題は提出しているが期日を守れないものが多い。	期日までに終わっていない必修課題が 1/3 以上ある。未提出の課題がある。
楽典の理解度（30%）	内容をしっかりと理解できており，困っている人が理解できるよう解説することができる。	説明内容をほぼ全て理解できている。	説明を聞いてすぐは理解できているが，時間が経つとあやふやになっている。	小学校音楽で学んだ内容は理解できているが，調などの難しい内容の理解は不足している。	音符を読むことができず，小学校音楽で学んできた内容の振り返りも理解できていない。

評価方法

・実技試験（全調課題各 10%・期末実技試験 30%）　・楽典試験（30%）　・学習態度・練習状況・課題提出（20%）

テキスト

・教科書名：『保育のためのやさしい子どもの歌　－弾き歌い・合奏・連弾・合唱－』
・著 者 名：有村さやか・今泉明美・望月たけ美 編著　　・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年（ISBN）：2023 年（9784623094714）
・入学前配布資料も持参すること
・配布された資料を保存するためのスクラップブック等を準備すること。ただし，クリアファイルは不可。

音楽Ⅱ　～音楽活動を実践するための基礎力の育成～	宮澤・一村・佐藤（千）・佐藤（良）・ 舘岡・萩原・髙梨

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	必修	選択必修	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

「音楽Ⅰ」と同様に、クラス授業とピアノの個人レッスンを45分交代で実施する。

保育・教育現場における実務経験に基づいて、子どもが楽しめる音楽あそびや歌唱表現活動を実践するために必要な音楽の基礎的な知識や演奏法や表現法を指導する。

クラス授業では、音楽の基礎的な理論を必修曲の「子どものうた」と関連付け、実際に演奏しながら学ぶことで、生きた音楽の知識を身に付ける。また、歌唱や合唱発表を通して、楽曲のよさや美しさを生かした歌唱表現や身体表現、舞台発表の工夫について協働的に学ぶ。

ピアノの個人レッスンでは、保育・教育現場で使用頻度の高い「子どものうた」や「生活のうた」を必修課題とし、コード伴奏法を含めて、子どもが楽しく歌える弾き歌いの技能を身に付ける。また、音楽表現の幅を広げるため、選択曲として個々のレベルに応じた「子どものうた」の弾き歌いやピアノ曲の演奏にも取り組む。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション、歌唱①音取り（大学祭合唱発表曲）	個人レッスン（夏休みの課題）
第 2 回	歌唱②呼吸と発声の基礎（大学祭合唱発表曲）	個人レッスン（生活のうた・必修曲）
第 3 回	歌唱③音楽表現の工夫（大学祭合唱発表曲、必修曲）	個人レッスン（生活のうた・必修曲）
第 4 回	歌唱④身体表現の考案（大学祭合唱発表曲、必修曲）	個人レッスン（生活のうた・必修曲）
第 5 回	歌唱⑤舞台発表の工夫（大学祭合唱発表曲）	個人レッスン（生活のうた・必修曲）
第 6 回	【大学祭合唱発表（リハーサル・本番）】	
第 7 回	歌唱⑥「子どものうた」歌唱表現法（必修曲）	個人レッスン（生活のうた・必修曲）
第 8 回	【中間実技試験】「生活のうた」弾き歌い	個人レッスン（生活のうた・必修曲）
第 9 回	楽典・ソルフェージュ①音楽を形づくっている要素	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第10回	楽典・ソルフェージュ②拍の流れとリズム	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第11回	楽典・ソルフェージュ③音階の仕組みと調	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第12回	楽典・ソルフェージュ④和音の響きとコードの種類	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第13回	楽典・ソルフェージュ⑤コード伴奏のアレンジ法	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第14回	【ソルフェージュ試験】音名唱、リズム唱	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第15回	期末実技試験リハーサル（「子どものうた」弾き歌い）	個人レッスン（必修曲・選択曲）

予習・復習

・予習：ピアノの個人レッスンで指定された楽曲を次回までに演奏できるよう、毎日15分以上練習すること。

・復習：既習曲の弾き歌いやピアノ演奏を週2回程度練習し、保育者・教員になった際にいつでも演奏できるよう、自分自身のレパートリーとして維持すること。
楽典やソルフェージュ（音名唱・リズム唱）等、授業で学んだ内容も必ず復習すること。

履修上の注意

・卒業必修科目であるため、こども学科の学生は全員必ず履修すること。
・遅刻は 3 回で 1 回欠席とする。授業開始後 20 分以降は欠席扱いとする。
・クラス授業と個人レッスン両方に出席しないと欠席扱いとなるので注意すること。
・クラス授業では、【大学祭合唱発表（リハーサル・本番)】【ソルフェージュ試験】を、ピアノの個人レッスンでは「夏休みの課題」「生活のうた（実習曲)」「必修曲」の合格を必須とする。

到 達 目 標

・保育者、小学校教員になるための音楽的資質の向上を目指し、授業に主体的に取り組むことができる。
・音楽の基礎的な理論について、実際に演奏する楽曲と結び付けて理解することができる。
・楽曲のよさや美しさを感じ取り、子どもの音楽活動にふさわしい表現を工夫しながら歌ったりピアノを演奏したりすることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学修に対する姿勢や態度（20%）	予習・復習や全ての課題に丁寧に取り組んだ上で、自主的な課題にも取り組み、クラス授業と個人レッスンに積極的、主体的な姿勢や態度で取り組んでいる。	指定された予習・復習や課題に丁寧に取り組み、クラス授業と個人レッスンに主体的な姿勢や態度で取り組んでいる。	全ての課題を提出し、指定された予習・復習におおむね取り組んでいるが、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度がやや主体性に欠ける。	期日が守れなかったが全ての課題を提出し、指定された予習・復習にもおおむね取り組んでいるが、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度が主体性に欠ける。	指定された予習・復習や課題に取り組まず、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度も主体性に欠ける。
表現の創意工夫と演奏の技能（50%）	子どもの音楽活動にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを十分に生かして弾き歌いができる。	子どもの音楽活動にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを生かして弾き歌いができる。	音楽の流れが止まる箇所が所々あるものの、子どもの音楽活動にふさわしい表現を自分なりに工夫しながら弾き歌いができる。	音楽の流れが止まる箇所が多くあるものの、子どもの音楽活動にふさわしい表現を自分なりに工夫しながら、弾き歌いができる。	音楽の流れが大きく止まる箇所が非常に多くあり、子どもの音楽活動にふさわしい表現の工夫もみられない。
ソルフェージュ能力（20%）	常に一定のテンポ感を維持し、スムーズな拍の流れの中で音程やリズムを正確に伝えることができる。	ほぼ一定のテンポ感を維持し、スムーズな拍の流れの中で音程やリズムを正確に伝えることができる。	ややテンポが崩れる箇所があるが、拍の流れを自分なりに感じながら、音程やリズムをほぼ正確に伝えることができる。	ややテンポが崩れる箇所があるが、拍の流れを自分なりに感じながら、音程やリズムをおおむね正確に伝えることができる。	テンポが崩れる箇所が所々あり、全体の半分以上の音程やリズムを正確に伝えることができない。
音楽の基礎知識の理解（10%）	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴を十分に理解し、課題の記述内容も模範的な水準である。	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴を十分に理解している。	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴の理解がやや不足している。	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴の理解が不足している。	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴の理解ができていない。

評価方法

・受講態度 20%（クラス授業 10%、ピアノレッスン 10%） …【評価項目】学修に対する姿勢や態度
・実技試験 50%（中間実技試験 20%、期末実技試験 30%） …【評価項目】表現の創意工夫と演奏の技能
・ソルフェージュ試験 20%（音名唱 10%、リズム唱 10%） …【評価項目】ソルフェージュ能力
・個人レッスン待機課題 10% …【評価項目】音楽の基礎知識の理解

テキスト

・その他の使用テキストについては、後期ガイダンスにて指定する。
・配布物を整理、保管できるファイルを各自用意すること。

音楽Ⅲ　～保育・教育における音楽活動実践力の育成～	宮澤・佐藤(良)・舘岡・松山・山口(茜)・髙梨

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	選択必修	選択必修	選択必修

授業概要　※実務経験のある教員による授業科目

「音楽Ⅱ」と同様に、クラス授業とピアノの個人レッスンを45分交代で実施する。「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」で学んだ内容を発展させ、保育・教育における音楽活動実践力を育成する。

クラス授業では、教員の保育・教育現場における実務経験に基づいて、歌唱やピアノ、ミュージックベルの演奏法と表現法、音楽あそびや音楽授業の模擬実習、コード伴奏法や記譜法を含む音楽の基礎的な理論を指導する。歌唱では主に音楽文化財である「季節のうた」と「わらべうた」を取り上げ、集団で歌ったり遊んだりする体験を通して、子どもの生活の中で歌い継がれてきたうたのよさや楽しさを味わい、音楽的特徴を理解する。また、教育実習に向けて音楽活動の模擬実習を計画し、発表を行う。同時に他者の模擬実習を子どもの目線をもって体験し、協働的に学ぶ。音楽の基礎的な理論では、「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」で学んだ音楽の基礎知識を復習し、楽譜作成ソフトを用いた記譜法を身に付ける。

ピアノの個人レッスンでは、子どもが親しみやすい行進曲や芸術曲、「季節のうた」の演奏に取り組み、楽曲のイメージを広げたりふさわしい音楽表現を創意工夫したりしながら、ピアノ演奏の技能を高める。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション、「自己紹介のうた」づくり	個人レッスン（春休み課題）
第 2 回	弾き歌い①前奏と後奏のつけ方（6月のうた）	個人レッスン（行進曲）
第 3 回	弾き歌い②楽曲の特徴を生かした演奏法（春のうた）	個人レッスン（行進曲）
第 4 回	弾き歌い③楽曲の特徴を生かした演奏法（夏のうた）	個人レッスン（行進曲・季節のうた）
第 5 回	わらべうた遊び①「わらべうた」の音楽的特徴	個人レッスン（行進曲・季節のうた）
第 6 回	わらべうた遊び②伝承遊び体験と指導法	個人レッスン（行進曲・季節のうた）
第 7 回	わらべうた遊び③伝承遊び体験と指導法	個人レッスン（行進曲・季節のうた）
第 8 回	【模擬実習】「自己紹介のうた」歌唱発表、音楽あそび・音楽授業の発表と体験	
第 9 回	【中間実技試験】「6月のうた」弾き歌い　／　「行進曲」のピアノ演奏	
第10回	弾き歌い④楽曲の特徴を生かした演奏法（秋のうた）	個人レッスン（芸術曲）
第11回	弾き歌い⑤楽曲の特徴を生かした演奏法（冬のうた）	個人レッスン（芸術曲）
第12回	楽譜作成ソフトを用いた記譜法　※ICTを用いた指導	個人レッスン（芸術曲）
第13回	ミュージックベル①基本の奏法、「チャイム」づくり	個人レッスン（芸術曲）
第14回	ミュージックベル②指導法、楽曲練習とグループ発表	個人レッスン（芸術曲）
第15回	期末実技試験リハーサル（芸術曲のピアノ演奏）	個人レッスン（芸術曲）

予習・復習

・予習：ピアノの個人レッスンで指示された楽曲を次回までに演奏できるよう、毎日15分以上練習すること。
・復習：既習曲の弾き歌いやピアノ演奏を週2回程度練習し、保育者・教員となった際にいつでも演奏できるよう、レパートリーとして維持すること。

履修上の注意

・実習派遣に関わる科目のため、幼稚園教諭及び保育士の資格取得予定者は必ず履修すること。
・遅刻は 3 回で 1 回欠席とする。授業開始後 20 分以降は欠席扱いとする。
・クラス授業と個人レッスン両方に出席しないと欠席扱いとなるので注意すること。

到 達 目 標

・保育者・教員としての音楽的資質の向上を目指し、授業に主体的に取り組むことができる。
・楽曲のよさや美しさなどを感じ取り、イメージを広げながらふさわしい音楽表現を工夫して弾き歌いやピアノ演奏をすることができる。
・幼児のための音楽あそびや小学校低学年の音楽科授業を計画し、模擬実習として実践することができる。
・記譜法の基礎を理解し、ピアノ伴奏の楽譜を作成することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学修に対する姿勢や態度（20%）	予習・復習や全ての課題に丁寧に取り組んだ上で、自主的な課題にも取り組み、クラス授業と個人レッスンに積極的、主体的な姿勢や態度で取り組んでいる。	指定された予習・復習や課題に丁寧に取り組み、クラス授業と個人レッスンに主体的な姿勢や態度で取り組んでいる。	全ての課題を提出し、指定された予習・復習におおむね取り組んでいるが、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度がやや主体性に欠ける。	期日が守れなかったが全ての課題を提出し、指定された予習・復習にもおおむね取り組んでいるが、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度が主体性に欠ける。	指定された予習・復習や課題に取り組まず、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度も主体性に欠ける。
表現の創意工夫と演奏の技能（50%）	子どもの音楽活動にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを十分に生かして弾き歌いやピアノ演奏ができる。	子どもの音楽活動にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを生かして弾き歌いやピアノ演奏ができる。	音楽の流れが止まる箇所が所々あるものの、子どもの音楽活動にふさわしい表現を自分なりに工夫しながら弾き歌いがやピアノ演奏できる。	音楽の流れが止まる箇所が多くあるものの、子どもの音楽活動にふさわしい表現を自分なりに工夫しながら弾き歌いやピアノ演奏ができる。	音楽の流れが止まる箇所が非常に多くあり、子どもの音楽活動にふさわしい表現の工夫もみられない。
音楽活動の計画・実践力（20%）	教育実習での音楽活動を想定した指導案を的確に作成でき、発表において子どもの興味を引き出す創意工夫や様々な配慮がみられ、模範的な水準である。	教育実習での音楽活動を想定した指導案を的確に作成でき、発表において子どもの興味を引き出す創意工夫や配慮がみられる。	教育実習での音楽活動を想定した指導案をおおむね的確に作成できているが、発表において子どもの興味を引き出す工夫や配慮がやや不足している。	教育実習での音楽活動を想定し、自分なりに指導案を作成できているが、発表において子どもの興味を引き出す工夫や配慮が不足している。	教育実習での音楽活動を想定していない不十分な指導案で、発表においても子どもの興味を引き出す工夫や配慮がみられない。
記譜法の理解（10%）	記譜法の基礎だけでなく、応用的な内容も自主的に学び理解している。	音楽の基礎的な知識を活用し、記譜法を十分に理解している。	音楽の基礎的な知識がやや足りていないが、記譜法をおおむね理解している。	音楽の基礎的な知識がやや足りていないため、記譜法の理解がやや不足している。	音楽の基礎的な知識が定着しておらず、記譜法が理解できていない。

評価方法

・受講態度 20%（クラス授業 10%、ピアノレッスン 10%）…【評価項目】学修に対する姿勢や態度
・実技試験 50%（中間実技試験 20%、期末実技試験 30%）…【評価項目】表現の創意工夫と演奏の技能
・模擬実習 20%（歌唱発表 10%、音楽活動の指導案と発表 10%）…【評価項目】音楽活動の計画・実践力
・課題 10%（レッスン待機課題 5%、楽譜作成ソフト課題 5%）　…【評価項目】記譜法の理解

テキスト

・教科書は「音楽Ⅱ」に引き続き、『保育ためのやさしい子どもの歌』を使用する。
・オリジナルテキスト『音楽活動実践力を身に付ける音楽Ⅲ』を初回の授業で配布する。
・配付物を整理、保管できるファイルを各自用意すること。

音楽Ⅳ　～保育・教育現場における実践力及び指導力を身に付ける～	齊藤・宮澤

※実務経験のある教員による授業科目

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	1	選択	－	－	－

授 業 概 要

選択人数や学習内容により指導形態は変わるが，第８回までは合同授業と個人レッスンを，第９回からは合同授業を中心に行う。保育・教育現場での実践にすぐに役立つ教材の演習を通し，実践法や指導法を身に付けられるよう，全ての回について小・中学校教員の実務経験を活かして指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容	
第 1 回	ガイダンス，音色の違いに注目したボディパーカッション	
第 2 回	歌によるコミュニケーション①（斉唱と合唱「わらべうた」，交互唱「よろこびのうた」①）	
第 3 回	歌によるコミュニケーション②（交互唱「よろこびのうた」②）	個人レッスン
第 4 回	初見演奏①，歌に合わせたリズム遊び	個人レッスン
第 5 回	初見演奏②，ボディパーカッションとピアノによるアンサンブル	個人レッスン
第 6 回	初見演奏③，保育実践での器楽教材の演習①連弾・重奏に向けて	個人レッスン
第 7 回	初見演奏④，ボイスパーカッションによるアンサンブル	個人レッスン
第 8 回	中間実技試験	個人レッスン
第 9 回	保育実践での器楽教材の演習②器楽合奏に向けて	
第 10 回	保育実践での器楽教材の演習③器楽合奏に向けた練習方法について	
第 11 回	保育実践での器楽教材の演習④器楽合奏	
第 12 回	保育実践での器楽教材の演習⑤指揮法	
第 13 回	保育実践での歌唱・器楽教材の演習①劇あそび体験	
第 14 回	楽譜作成ソフトの活用（ピアノ伴奏の編曲・作成した楽譜の実演「楽器のお名前なぁに？」）	
第 15 回	保育実践での器楽教材の演習⑥連弾・重奏発表に向けて（連弾レッスン）	

予 習 ・ 復 習

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには，日々の練習が欠かせません。個人レッスンの一人あたりの時間は短いため，必ず練習をして臨むこと。練習をしていない状態では，個人レッスンを受ける資格がないに等しいです。

・復習：合格した課題曲はいつでも演奏できるよう，レッスン後も継続して練習すること。さらに，理論については，授業内で理解できない内容があった場合は積極的に質問し，理解を深めること。

履修上の注意

大学で個人レッスンを受けられる最後の授業であるが，音楽Ⅰ～Ⅲのようにレッスンの先生はおらず，授業者がレッスンを行うため，これまで以上にレッスン時間は非常に短くなる。そのため，短時間のレッスンが有効に機能するよう必ず練習をして授業に臨むこと。また，個人レッスンが受けられない日もあるが，その場合は個人練習をしっかり行うこと。さらに，連弾・重奏は一人ではできないため，ペア・グループで合わせる時間を作って練習を進めること。

なお，履修希望者が多く定員に達した場合は，履修届の先着順とする。

到 達 目 標

就職後の音楽活動について，柔軟な感覚と実践力を持って指導できるための力を養う。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
表現の創意工夫（中間・期末試験）（40%）	楽曲に相応しく，且つオリジナル性の高いアレンジや表現の工夫を考えることができる。	楽曲に相応しいアレンジや表現の工夫を考えることができる。	アレンジや表現の工夫を自分なりに考えることができる。	アレンジや表現の工夫を自分なりに考えることはできないが，アドバイスをもとに考えることができる。	アレンジや表現の工夫をすることができない。
表現の技能（中間・期末試験）（20%）	自分で考えたアレンジなどを音楽的に表現しながら，完成度の高い演奏をすることができる。	自分で考えたアレンジなどを音楽的に表現しながらスムーズに演奏することができる。	自分で考えたアレンジなどを表現することはできるが，所々，躓くため，音楽の流れがやや止まる。	アドバイスを受けて考えた表現をしようとするが，躓きがかなり多い。	アドバイスを受けても考えることができず，全く演奏することができない。
保育者として必要な支援方法の理解（20%）	保育者として必要な支援方法を理解し，上手く表現できない人に対してアドバイスすることができる。	保育者として必要な支援方法を理解し，どのような声掛けが必要かを考えることができる。	保育者として必要な支援方法は理解しているが，具体的な声掛けや手段を考えるまでには至っていない。	保育者として必要な支援方法をあまり理解しておらず，具体的な声掛けや手段を考えることができない。	保育者として必要な支援方法を全く理解しておらず，具体的に考えることができない。
学習意欲（20%）	レパートリーを増やすなど自主的に課題を設定し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。	自主的に課題を設定し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。	自主的に課題を設定することはできるが，授業に臨む姿はやや積極性に欠ける。	自主的に課題を設定することができず，授業に臨む姿は積極性に欠ける。	自主的に課題を設定せず，授業に臨む姿は消極的である。

評価方法

・実技試験（中間実技試験（個人）・期末実技試験（連弾・重奏） 60%）
・保育者としての支援方法の理解（様々な活動の様子の観察）（20%）
・学習態度・練習状況・課題提出（20%）

テキスト

・音楽Ⅰ～Ⅲで使用した教科書
・その他，適宜，資料を配布する（Ａ４サイズのスクラップブックなどを準備すること）

保育内容(表現・音楽) ～保育者として必要な音楽表現の理論と実践～

齊藤　淳子

※実務経験のある教員による授業科目

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	後期	1	選択	必修	－	必修

授 業 概 要

幼稚園や保育園で日常的に行われている音楽表現について，『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の領域「表現」をふまえながら理論的・実践的に理解を深めるとともに，その指導法を修得できるようにする。また，子どもの学びの連続性を確保するためには保幼小連携の視点が大切となる。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりとして保幼小連携の在り方についても考える。楽器の奏法や歌唱，創作活動，舞台発表については，小・中学校教員としての実務経験を生かして指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス，楽器で奏でる①～太鼓あそび及び太鼓の基本奏法，声で奏でる①わらべうたあそび～
第 2 回	楽器で奏でる②～長胴太鼓と小締太鼓でアンサンブルをつくろう（創作お囃子）～
第 3 回	楽器で奏でる③～創作お囃子の「なか」の部分を完成させよう～
第 4 回	楽器で奏でる④～創作お囃子を練る～
第 5 回	楽器を奏でる⑤～創作お囃子を完成させる～
第 6 回	舞台発表のリハーサル及び本番（舞台セッティング・演奏・舞台撤去等の体験）
第 7 回	舞台発表の振り返り，世界の音楽教育メソッドを知る，手で奏でる・身体で奏でる①～手あそび～
第 8 回	手で奏でる・身体で奏でる②～手話の歌・リトミック～
第 9 回	声で奏でる②～童謡をア・カペラで 100 曲演習～
第 10 回	楽器で奏でる⑤～様々な打楽器の音を聴き，基本奏法を知ろう～
第 11 回	身近な素材で奏でる①～身の回りの音素材探し（ICT の活用を含む）～
第 12 回	身近な素材で奏でる②～身の回りの音から音楽へ（ICT の活用を含む）～
第 13 回	絵本と音楽～絵本と音楽の関係について考え，絵本に音・音楽をつけてみよう～
第 14 回	絵本と音楽～好きな絵本に音・音楽をつけてみよう～
第 15 回	絵本に音・音楽をつけながら読み聞かせの発表をしよう

予 習 ・ 復 習

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには日々の練習が欠かせない。必ず練習をして授業に臨むこと。
・復習：クリアした課題はいつでも演奏できるよう，継続して練習すること。さらに，理論については難しい内容もあるため，授業内で理解できない内容があった場合は積極的に質問し，理解を深めること。

履修上の注意

・大学祭での舞台発表は，普段の授業とは異なる学びを得ることができるため，練習，準備，本番の全てに出席することを必修とする。
・グループやペアなど仲間と協力して音楽づくりを進めること。
・積極的に様々な音楽表現を体験すること。
・遅刻３回で１欠席扱いとする。

到 達 目 標

・領域「表現」における音楽表現の扱いについて学び，そのねらいと内容を理解する。
・童謡 100 曲（歌），幼児が親しみやすい打楽器の奏法技能，即興表現の能力，音・音楽づくり(創作)能力を修得する。
・想像力と創造力を伸ばす。
・世界の音楽教育メソッドについて理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
表現の創意工夫（絵本と音楽による表現発表）（20%）	日頃から日常に溢れる音を意識して聴き，音楽表現や保育の中でどのように生かすことができるかを考え，創作活動に生かすことができる。	身の回りの音に関心を持ち，創作活動に生かすことができる。	身の回りの音に関心を持つことはできるが，創作活動に生かすことはあまりできない。	身の回りの音にあまり関心を持つことができず，創作活動に生かすことはほぼできない。	身の回りの音に全く関心がなく，自分で考えて創作活動をすることができない。
歌唱表現の技能（期末試験）（10%）	指定数以上の曲を覚え，どの曲も正しく歌うだけなく，イメージなども考え表現することができる。	指定数の曲を覚え，どの曲も正しい音程・リズムで歌うことができる。	指定数の曲を覚え，歌うことはできるが，音程等が不安定になるところがある。	指定数の曲を覚えたが，正しい音程やリズムで歌うことができない。	指定数の曲を覚えておらず，元々知っている曲以外は歌うことができない。
器楽表現の技能（期末試験）（30%）	楽器の奏法を理解し，自由に演奏することができる。	楽器の奏法を理解し，演奏することができる。	楽器の奏法は理解しているが，上手く演奏することはできない。	楽器の奏法を理解しているものもあるが，自己流のものもあり上手く演奏することができない。	楽器の奏法は全く理解しておらず，自己流で音を鳴らすことしかできない。
音楽教育についての理解度（レポート）（20%）	世界の様々な音楽教育に関心を持ち，その内容を十分に理解した上で，保育にどのように生かすことができるかを考えることができる。	世界の音楽教育に関心を持ち，内容を理解し，保育との繋がりを考えることができる。	世界の音楽教育に関心を持ち，大まかな内容は理解しているが，保育との繋がりを考えることはあまりできない。	世界には様々な音楽教育があることは理解しているが，内容及び保育との繋がりに関する理解は乏しい。	世界の音楽教育に関心がなく，保育との繋がりがあることを理解することができない。
学習意欲（20%）	グループ活動の際にリーダーを務め，話し合いをまとめるなど積極的な態度で授業に取り組んでいる。	話し合い活動の際に活発に意見やアイディアを出し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。	話し合い活動の際，意見を求められたらいうことはできるが，授業に臨む姿はやや積極性に欠ける。	話し合い活動の際に意見を求められても，ほとんど何も発言することがなく，授業に臨む姿は積極性に欠ける。	話し合い活動の際，その場にいるだけで話し合い等に参加しておらず，授業に臨む姿は消極的である。

評価方法

期末実技試験（40%），絵本と音楽による表現発表（20%），レポート（20%），学習態度・課題提出（20%）

テキスト

・教科書名：『保育者のための表現あそび　ー音楽・身体・造形のアイディアー』
・著 者 名：若谷啓子 編・齊藤淳子・渡辺敏明・桐原礼 著
・出版社名：大学図書出版
・出 版 年（ISBN）：2023 年（978-4-909655-70-7）
＊その他，適宜，資料を配布する（Ａ４ サイズのスクラップブックなどを準備すること）

保育内容(表現･造形) I　～子供に関わる造形表現の基礎～	木谷　安憲

【こども学科】

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	前期	1	選択	必須	-	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするための授業である。そのために、自分が表現するだけではなく園児に対してどのようにかかわっていけばよいのかを、授業全体を通して指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	授業スケジュールと材料・用具の説明(情報機器及び教材の活用を含む)
第 2 回	色紙を使った「自分の名前デザイン」
第 3 回	色彩表現 I 色の三原色を使った色彩あそび
第 4 回	色彩表現 II 色の三原色と白・黒を使った色彩あそび
第 5 回	色彩表現 III 色の三原色を使った絵画あそび
第 6 回	色紙と絵具を使った絵画遊び
第 7 回	幼稚園教育要領について
第 8 回	絵の活動を考える I 幼稚園でできる絵画の制作
第 9 回	絵の活動を考える II 幼稚園での絵画活動 導入のプレゼンテーション
第 10 回	絵の活動を考える III クラス単位での模擬授業
第 11 回	絵の活動を考える IV クラス単位での壁面装飾風共同制作
第 12 回	絵画制作 ごしごしあそび かたつむりを描く
第 13 回	絵画制作 どこから描いたらいいのあそび
第 14 回	絵画制作 こすりだしあそび フロッタージュなどの技法習得
第 15 回	おなまえ絵本制作

予 習 ・ 復 習

・予習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。下描きなど事前準備が必要な場合は指示をする。

・復習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。

履修上の注意

保育内容(表現・造形)Ⅰの履修者が受講する。
絵の具セットを毎回持参する。
ハサミ、のりは毎回持参する。
20 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席とする

到 達 目 標

造形活動を楽しむことができるようになる。
感じたことや考えたことを自分なりに表現できるようになる。
指導者の立場で活動を考えられるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
思考力［活動計画等］(20%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた、すぐれた活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた活動計画等を作ることができる。	活動計画等を作ることができても、思考力の観点が抜けている。	思考力という観点が抜けている
構想力［作品制作におけるアイディア等］(20%)	全学生の見本となるような構想力のある作品制作を行うことができる。	すぐれた構想力のある作品制作を行うことができる。	構想力のある作品制作を行うことができる。	作品制作を行うことができるが、構想力の観点が抜けている。	構想力という観点が抜けている。
表現力［見本作品制作等］(40%)	全学生の見本となるような見本作品を作る表現力を持っている。	すぐれた見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作ることができても、表現力の観点が抜けている。	表現力という観点が抜けている。
総合的な力(20%)	思考力、構成力、表現力を結びつけ、全学生の見本となるような実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、すぐれた実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、実践を行うことができる	実践を行うことができても、思考力、構成力、表現力が結びついていない。	思考力、構成力、表現力を結びつける観点が抜けている。

評価方法

指導案・課題作品(80%)
レポート(20%)

テキスト

・教科書名：子どもの造形表現―ワークシートで学ぶ
・著 者 名：:畠山智宏・ 北沢昌代・中村光絵
・出版社名：開成出版
・出 版 年（ISBN)：第 2 版 2019 年（978-4876035182）

保育内容(人間関係)　～子どもと保育者でつくる人間関係～　岩崎　桂子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	必修	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

本授業では、乳幼児の人間関係について、毎回、乳幼児の園生活の映像資料を紹介し、人と関わる力や心の働きが育つ過程の長期的な見通しが持てるように指導する。保育士の実務経験に基づき、それを支える保育者の関わりについて具体的な指導・援助の行為とその背景にある心の働きを見取ることができる見方を指導する。さらに現代の家庭や地域における人間関係の特徴と課題について、保育を営む上で基本的な認識を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：人間関係とは何かを解説する
第 2 回	乳幼児期の「人間関係」がその後の「人間関係」に及ぼす影響
第 3 回	保育における「人間関係」を学ぶ-領域「人間関係」-
第 4 回	保育者が作る「人間関係」-保育者が築く「人間関係」-
第 5 回	新入園児と保育者と人間関係-グループで事例検討-
第 6 回	遊びを支える保育者と人間関係-グループで事例検討-
第 7 回	こどもが遊びに夢中になるになる人間関係-グループで事例検討-
第 8 回	こどもの一人遊びを捉える-グループで事例検討-
第 9 回	こどもの創造性を支える人間関係-グループで事例検討-
第 10 回	一人のこどもと関わる保育者の人間関係-グループで事例検討-
第 11 回	年齢別のこどものケンカの意味を探る-グループで事例検討-
第 12 回	見せる保育とは？-グループで事例検討-
第 13 回	行事に向けたこどもと保育者の人間関係-グループで事例検討-
第 14 回	人間関係の育ちを見通した保育計画を考える-グループワーク-
第 15 回	多様化する社会の人間関係-保育者として学び合い、育つとは-まとめ

予習・復習

・予習：事前に映像資料の解説を配布するので、子どもや保育者の関わりを深く捉えられるように理解しておく。次回の学習範囲を伝えるのでテキストを読んでおく。
・復習：返却されたワークシートを見直しておく。必要に応じて授業外でグループでの話し合いを進めておく。

履修上の注意

・映像資料で使用するワークシートを保管するファイルを用意する。
・ワークシートは期限内に必ず提出すること。・授業に対して積極的な態度で臨むこと。
・遅刻（授業開始 20 分）３回で欠席１回とする。
・グループワークでは、グループ内での積極性を重要視する。
・テキストは、「子どもと人間関係」と同じものを使用する。

到 達 目 標

・人と関わる力が育つ過程について、乳児期から幼児期の終わりまでの見通しを理解する。
・人間関係が育つ保育の基本的なあり方について、保育者の意図を見取って理解する。
・多様化する保育の特徴と課題について理解し、向き合う姿勢を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（10%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解出来る。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限理解している。	内容について理解出来ていない。
課題解決能力（30%）	自身の解決策と他者からの意見を含めて課題を解くことができる。	自身の力で課題を解くことができる。	教科書や他者の意見を参考にすれば課題を解くことができる。	他者からアドバイスを受けることで課題を解くことができる。	他者のアドバイスや教科書があっても課題を解決する事ができない。
課題を文章で説明する力（レポート）（60%）	他者を説得する内容が記述する事ができる。	論理が通った説明文を記述する事ができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明できる。	内容について説明できない。

評価方法

学期末試験（レポート）60%　　授業内グループワーク 30%　　授業態度 10%

テキスト

・教科書名：資質・能力を育む保育内容領域人間関係-こどもにとっての人間関係とは-
・著 者 名：編者：齊藤崇
・出版社名：教育情報出版
・出 版 年（ISBN）：2023 年（978-4-909378-51-4）

初等教科教育法(図画工作)　～図工で育てる思考力、判断力、表現力～	木谷　安憲

【こども学科】

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	2	選択	－	選択	－

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

小学校の教育課程における図画工作科における役割や性格について講義し、それを踏まえて実技制作を行う。1 学年から 6 学年までの作品制作をする中で、教科内容、指導方法等の基本的な事項について、指導者に必要な知識・理解を習得できるよう、授業全体を通して指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス(受講者自身の振り返り：小学校時代の図工に関して)
第 2 回	図画工作科の目標および内容について理解する
第 3 回	第 1・2 学年の目標と内容について講義をする
第 4 回	第 1・2 学年の目標と内容についての演習を行う
第 5 回	第 3・4 学年の目標と内容について講義をする
第 6 回	第 3・4 学年の目標と内容についての演習を行う
第 7 回	第 5・6 学年の目標と内容について講義をする
第 8 回	第 5・6 学年の目標と内容についての演習を行う
第 9 回	模擬授業のための指導案を書く
第 10 回	模擬授業 1
第 11 回	模擬授業 2
第 12 回	模擬授業 3
第 13 回	模擬授業 4
第 14 回	授業分析と授業評価について講義・演習を行う
第 15 回	まとめ(情報機器及び教材の活用を含む)

予 習 ・ 復 習

・予習：次回の授業で扱われる学年部分の小学校学習指導要領を読む。

・復習：制作した作品を、小学校学習指導要領に書かれている部分を踏まえて振り返る。

履修上の注意

実技を行うための描画材や材料は各自用意する。
20 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。
遅刻 3 回で 1 回の欠席とする

到 達 目 標

小学校図画工作科の教科内容、指導方法等の基本的な事項について、指導者に必要な知識理解とともに実践的な技能・態度を培うことを目標とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
思考力［指導計画等］(25%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような指導計画等を作ることができる。	思考力を働かせた、すぐれた指導計画等を作ることができる。	思考力を働かせた指導計画等を作ることができる。	指導計画等を作ることができても、思考力の観点が抜けている。	思考力という観点が抜けている
判断力［指導計画、見本作品制作等］(25%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような指導計画、見本作品制作等を作成することができる。	判断力を働かせた、すぐれた指導計画、見本作品制作等を作成することができる。	判断力を働かせた指導計画、見本作品制作等を作成することができる。	指導計画、見本作品制作等を作成することができても、判断力の観点が抜けている。	判断力という観点が抜けている。
表現力［見本作品制作等］(25%)	全学生の見本となるような見本作品を作る表現力を持っている。	すぐれた見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作ることができても、表現力の観点が抜けている。	表現力という観点が抜けている。
総合的な力(25%)	思考力、判断力、表現力を結びつけ、全学生の見本となるような実践を行うことができる。	思考力、判断力、表現力を結びつけた、すぐれた実践を行うことができる。	思考力、判断力、表現力のどれかを結びつけた実践を行うことができる。	実践を行うことができても、思考力、判断力、表現力が結びついていない。	思考力、判断力、表現力の観点が抜けている。

評価方法

指導案・課題作品から、小学校教諭になる者としての思考力、判断力、表現力がどれくらいあるのか、上記の基準に照らしながら評価していく。(75%)
図工における総合的な力がどのくらい身についたか、上記の基準に照らしながら評価していく。(25%)

テキスト

・教科書名：小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 図画工作編
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：日本文教出版
・出 版 年（ISBN）：2018 年　(978-4536590112)

子どもと人間関係　～こどもにとっての人間関係～	岩崎　桂子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	後期	2	選択	必修	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

領域「人間関係」の指導の基礎となる基礎理論として発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解できるように講義する。保育士の実務経験に基づいて、適時 DVD の視聴、事例を通して子どもの育ちの姿について講義する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	現代社会と人間関係－こどもを取り巻く人間関係・社会システムとの関係について－
第 2 回	現代のこどもを取り巻く影響と人間関係－保護者、家族、地域と人間関係について－
第 3 回	保育・幼児教育の基本－保育とは何か？領域「人間関係」について－
第 4 回	乳幼児の「人間関係」－子どもの発達と「人間関係」・他の領域との関係について－
第 5 回	乳児保育の視点－乳児の発達、「人間関係」とのつながりについて－
第 6 回	1 歳以上 3 歳未満児の「人間関係」－1 歳以上 3 歳未満児の発達、領域とのつながりについて－
第 7 回	3 歳以上の「人間関係」－3 歳以上の発達、「人間関係」のねらいと内容について－
第 8 回	領域「人間関係」と 10 の姿－自立、協同、道徳・模範意識、社会性のつながりについて－
第 9 回	様々な人との「人間関係」－異年齢児との関わり、生活、遊びの中での人間関係について－
第 10 回	幼保小の接続－「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「資質・能力」について－
第 11 回	保育者としての「人間関係」－個々のこどもの育ち、集団と人間関係ついて－
第 12 回	領域「人間関係」と指導計画－乳幼児の各年齢における指導計画－
第 13 回	多文化保育－多文化、異文化と「人間関係」について－
第 14 回	支援を必要とするこども－困難を伴う保育、障がいのあるこどもの保育－
第 15 回	まとめ－遊びと「人間関係」の指導計画・模擬保育－

予 習 ・ 復 習

・予習：事前に映像資料の解説を配布するので、子どもや保育者の関わりを深く捉えられるように理解しておく。次回の学習範囲を伝えるのでテキストを読んでおく。
・復習：授業内容をまとめ、専門用語を覚える。

履修上の注意

・ワークシートは期限内に必ず提出すること。・授業に対して積極的な態度で臨むこと。
・遅刻（授業開始 20 分）３回で、欠席１回とする。
・進歩状況により授業内容を変更する可能性がある。

到 達 目 標

① 幼児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。

② 幼児期の遊びの中で育つ人と関わる力の発達について、保育者との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。

③ 自立心の育ち、協同性の育ち、家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足はある。	授業内容を最低限理解している。	内容についての理解が出来ていない。
文章で説明する力（レポート）（50%）	他者を説得する内容が記述できる。	論理が通った説明分を記述することができる。	不足する点があるが説明文を書くことができる	最低限の内容について説明できる。	内容について説明できない
受講態度（20%）	自身の解決策と他者からの意見を含めて課題に取り組むことが出来る。	自身の力で課題を解くことができる。	積極的に授業に参加し授業内の課題に取り組むことが出来る	授業内の課題に積極的に取り組み問題解決できる。	授業内容を理解した上で積極的に課題を解決できる。

評価方法

学期末試験 50%　　授業内課題（発表）30%　　受講態度 20%

テキスト

・教科書名：資質・能力を育む保育内容領域人間関係-こどもにとっての人間関係とは-
・著 者 名：編者：齊藤崇
・出版社名：教育情報出版
・出 版 年（ISBN）：2023 年（978-4-909378-51-4）

子どもと表現　～子どもの表現を支えるための感性を豊かにする～	木谷･齊藤･宮澤

【こども学科】

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	前期	2	選択	必修	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

領域「表現」の指導に関する、子どもの表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に指導し、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付ける。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	表現とは何か、表現の生成過程の理解、領域「表現」のねらいと内容の理解
第 2 回	乳幼児の音楽的発達及び音楽表現の芽生えの理解(担当:宮澤)
第 3 回	イメージを音や声で表現する(担当:宮澤)
第 4 回	子どもの音楽遊びの体験と保育における音楽表現活動への展開(担当:宮澤)
第 5 回	豊かな音楽活動―音楽表現から総合的な表現への広がり―(担当:宮澤)
第 6 回	乳幼児の造形的発達及び造形表現の芽生えの理解(担当:木谷)
第 7 回	子どもの造形遊びの体験と保育における造形表現活動への展開(担当:木谷)
第 8 回	イメージを色や形で表現する(担当:木谷)
第 9 回	豊かな表現活動―造形表現から総合的な表現への広がり―(担当:木谷)
第 10 回	子どもの身体表現と身体的発達の理解(担当:齊藤)
第 11 回	イメージを身体で表現する(担当:齊藤)
第 12 回	子どもの身体遊びの体験と保育における身体表現活動への展開(担当:齊藤)
第 13 回	豊かな表現活動―身体表現から総合的な表現への広がり―(担当:齊藤)
第 14 回	音や声・色や形・動きを媒体とした総合的な表現創作活動
第 15 回	表現活動における ICT の活用と学習の総括

予 習 ・ 復 習

・予習:様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができるようにする授業なので、身の回りのものを身体の諸感覚でとらえるようにする時間を設ける。

・復習:子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できるように、その度に授業を振り返る。

履修上の注意

・授業では表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析できることを目指す。そのために、協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくように取り組むこと。また、様々な表現の基礎的知識を生かし、子どもの表現活動に展開させることができるように積極的な姿勢で授業に臨むこと。
・遅刻 3 回で 1 回欠席とする。授業開始後 20 分以降は欠席扱いとする。

到 達 目 標

(1)子どもの表現の姿や、その発達を理解する。
(2)身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、子どもの表現を支えるための感性を豊かにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
子どもの表現の姿や発達の理解(30%)	子どもの表現の姿や発達について十分に理解し、その内容から自らの気付きや考えを深めることができる。	子どもの表現の姿や発達について十分に理解している。	子どもの表現の姿や発達についておおむね理解している。	子どもの表現の姿や発達についての理解が不十分である。	子どもの表現の姿や発達について全く理解していない。
表現の基礎的な知識・技能を生かした思考力・表現力(30%)	表現の基礎的な知識・技能について学んだことを生かし、表現活動においてイメージ豊かに思考・判断・表現することができる。	表現の基礎的な知識・技能について学んだことを生かし、表現活動において自分なりに思考・判断・表現することができる。	表現の基礎的な知識・技能について学んだことを生かし、表現活動において指導者のアドバイスをもとに思考・判断・表現することができる。	授業で学んだ表現の基礎的な知識・技能と、表現活動における思考・判断・表現の結びつき付きがあやふやである。	授業で学んだ表現の基礎的な知識・技能が定着しておらず、表現活動における思考・判断・表現も不十分である。
総合的な表現活動の考案力・発表力(40%)	幼児が表現を楽しみ、感性や創造性を育めるよう工夫された総合的な表現の活動案を作成し、発表において他者にその活動を分かりやすく伝えることができる。	幼児が表現を楽しめるよう工夫された総合的な表現の活動案を作成し、発表において他者にその活動を分かりやすく伝えることができる。	総合的な表現の活動案を作成し、発表できるが、幼児が表現を楽しめるような工夫についての考案が不十分である。	総合的な表現の活動案を作成し、発表できるが、幼児が表現を楽しめるような工夫についての考案が不十分で、発表の説明も分かりにくい。	総合的な表現の活動の意味を理解せず、活動案の作成は不十分な上、発表で使用する教材・教具の準備も不十分で、説明も分かりにくい。

評価方法

・リフレクションシートの記述内容(30%)：音楽・造形・身体表現　各 10%
…評価項目【子どもの表現の姿や発達の理解】
・授業における表現活動の過程と発表(30%)：音楽・造形・身体表現　各 10%
…評価項目【表現の基礎的な知識技能を生かした思考力・表現力】
・総合的な表現活動の活動案と発表（40%)：期末試験　活動案 20%、発表 20%
…評価項目【総合的な表現活動の考察力・発表力】

テキスト

①音楽　・教科書名：保育者養成のための子どもと音楽表現
・著 者 名：宮澤多英子
・出版社名：一般社団法人日本電子書籍技術普及協会出版
・出 版 年（ISBN)：2021 年（978-4910472270)
②造形　・教科書名：ずこうことばでかんがえる
・著 者 名：きだにやすのり
・出版社名：HH.A.B.
・出 版 年：(ISBN)：2022 年（978-4990759667)
③身体表現・教科書名：保育者のための表現あそび　－音楽・身体・造形のアイディアー
・著 者 名：若谷啓子 編・齊藤淳子・渡辺敏明・桐原礼 著
・出版社名：大学図書出版
・出 版 年（ISBN)：2023 年（978-4-909655-70-7)

初等教科教育法（音楽） ～音楽科の授業づくりに必要な理論と指導法の演習～

齊藤　淳子

※実務経験のある教員による授業科目

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	2	選択	－	選択必修	－

授 業 概 要

小学校音楽科の目標や指導内容，指導計画，指導展開及び評価を含めた基礎的な理論，情報通信技術の活用について理解を深めるとともに，学習指導案作成と模擬授業の実践を通して音楽科の授業づくりについて学ぶ。また，教材研究の方法を含めた音楽科の授業づくりについて，小・中学校教員としての実務経験を生かして指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス，小学校学習指導要領（音楽）の目標・各学年の目標及び内容について
第 2 回	音楽科の指導内容と指導計画及び評価，音楽教育主要用語について
第 3 回	「歌唱」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信記述の活用）
第 4 回	「器楽」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信技術の活用）
第 5 回	「鑑賞」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信技術の活用）
第 6 回	「音楽づくり」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信技術の活用）
第 7 回	学習指導案の理解，ワークシートづくりについて
第 8 回	学習指導案の作成，ワークシートの作成
第 9 回	音楽教育史及び音楽史について
第 10 回	中間筆記試験（学習指導要領等，教員採用試験対策）及び解説
第 11 回	「歌唱」の模擬授業
第 12 回	「器楽」の模擬授業
第 13 回	「鑑賞」の模擬授業
第 14 回	「音楽づくり」の模擬授業
第 15 回	まとめ，音楽科における関連と連携

予 習 ・ 復 習

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには，日々の練習が欠かせません。演習がある際は，必ず事前に練習をして授業に臨みましょう。
・復習：学習指導要領や配布資料を熟読し，内容の理解に努めましょう。特に前半は，教員採用試験対策も含まれています。

履修上の注意

・現場に出た際に，「音楽専科がいるから大丈夫」と思わず，音楽専科がいない学校へ着任したり，自分が音楽専科になったりする可能性もあるということを念頭に置いて授業を受けること。
・模擬授業は教師・児童役を体験します。少人数での授業ですので，意欲的に取り組みましょう。
・ソプラノリコーダーまたは鍵盤ハーモニカを使用する予定です。なお，感染等の拡大状況により別の楽器で代用する場合もあります。
・学習指導案やワークシートについてはパソコンで作成してもらいますので，パソコンが苦手な人は，基本的な操作や文字の打ち込みに慣れておきましょう。

到 達 目 標

小学校学習指導要領（音楽）の目標・各学年の目標及び内容，指導計画，指導展開，評価等について理解した上で，学習指導案を作成し，授業を実践することができる力を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
小学校学習指導要領(音楽)及び小学校音楽の学習内容に関する理解度（中間・期末試験）（30%）	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容をしっかりと理解しており，他の人に解説することができる。	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容をほぼ全て理解できている。	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容を理解できていないところがいくつかある。	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容の理解が不足している。	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容を全く理解できていない。
歌唱共通教材の歌唱の能力（中間・期末試験）（10%）	全ての歌唱共通教材を正しく歌うだけなく，曲のイメージなども考え表現することができる。	全ての歌唱共通教材を正しい音程・リズムで歌うことができる。	全ての歌唱共通教材を歌うことはできるが，音程等が不安定になるところがある。	全ての歌唱共通教材を歌うことはできるが，正しい音程やリズムで歌うことができない。	低学年の歌唱共通教材や元々知っている曲以外は歌うことができない。
指導案立案及び模擬授業による実践力（40%）	指導案はしっかりと練って立案し，板書計画や掲示物等の準備も十分に行った上で模擬授業をスムーズに行うことができる。	よく考えて指導案を立案し，模擬授業を行うことができる。	指導案を立案することはできるが，時々，指導案を見ながらでなければ模擬授業を行うことができない。	教師用指導書を参考にしながら指導案を立案しているが，指導案を見ながらでなければ模擬授業をおこなうことができない。	指導案は教師用指導書を丸写しのため授業の流れを把握しておらず，指導案を見ながらでも模擬授業を行うことができない。
学習態度（10%）	話し合い活動の際にリーダーを務め，話し合いをまとめるなど積極的な態度で授業に取り組んでいる。	話し合い活動の際に活発に意見やアイディアを出し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。	話し合い活動の際，意見を求められたらいうことはできるが，授業に臨む姿はやや積極性に欠ける。	話し合い活動の際に意見を求められてもほとんど何もいつことがなく，授業に臨む姿は積極性に欠ける。	話し合い活動の際，その場にいるだけで話し合い等に参加しておらず，授業に臨む姿は消極的である。
課題提出（10%）	課題は全て期日内に提出している。	課題は遅れることなく提出している。	概ね期日内に課題を提出している。	課題を提出しているが，期日は守れていない。	未提出の課題がある。

評価方法

筆記試験（中間試験 15%，期末試験 15%），歌唱共通教材の歌唱実技試験（中間試験 5%，期末試験 5%），学習指導案立案・模擬授業の実践（40%），学習態度（10%），課題提出（10%）

テキスト

・教科書名：『三訂版 小学校音楽科の学習指導 ー生成の原理による授業デザインー』
・著者名：清村百合子・小島律子（監修）　・出版社名：廣済堂あかつき株式会社
・出版年（ISBN）：2018 年（978-4-908255-74-8）
＊その他，適宜，資料を配布する（専用のファイルを準備すること）

初等教科教育法(図画工作)　～図工で育てる思考力、判断力、表現力～	木谷　安憲

【こども学科】

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	2	選択	－	選択	－

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

小学校の教育課程における図画工作科における役割や性格について講義し、それを踏まえて実技制作を行う。1 学年から 6 学年までの作品制作をする中で、教科内容、指導方法等の基本的な事項について、指導者に必要な知識・理解を習得できるよう、授業全体を通して指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス(受講者自身の振り返り：小学校時代の図工に関して)
第 2 回	図画工作科の目標および内容について理解する
第 3 回	第 1・2 学年の目標と内容について講義をする
第 4 回	第 1・2 学年の目標と内容についての演習を行う
第 5 回	第 3・4 学年の目標と内容について講義をする
第 6 回	第 3・4 学年の目標と内容についての演習を行う
第 7 回	第 5・6 学年の目標と内容について講義をする
第 8 回	第 5・6 学年の目標と内容についての演習を行う
第 9 回	模擬授業のための指導案を書く
第 10 回	模擬授業 1
第 11 回	模擬授業 2
第 12 回	模擬授業 3
第 13 回	模擬授業 4
第 14 回	授業分析と授業評価について講義・演習を行う
第 15 回	まとめ(情報機器及び教材の活用を含む)

予 習 ・ 復 習

・予習：次回の授業で扱われる学年部分の小学校学習指導要領を読む。

・復習：制作した作品を、小学校学習指導要領に書かれている部分を踏まえて振り返る。

履修上の注意

実技を行うための描画材や材料は各自用意する。
20 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。
遅刻 3 回で 1 回の欠席とする

到 達 目 標

小学校図画工作科の教科内容、指導方法等の基本的な事項について、指導者に必要な知識理解とともに実践的な技能・態度を培うことを目標とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
思考力［指導計画等］(25%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような指導計画等を作ることができる。	思考力を働かせた、すぐれた指導計画等を作ることができる。	思考力を働かせた指導計画等を作ることができる。	指導計画等を作ることができても、思考力の観点が抜けている。	思考力という観点が抜けている
判断力［指導計画、見本作品制作等］(25%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような指導計画、見本作品制作等を作成することができる。	判断力を働かせた、すぐれた指導計画、見本作品制作等を作成することができる。	判断力を働かせた指導計画、見本作品制作等を作成することができる。	指導計画、見本作品制作等を作成することができても、判断力の観点が抜けている。	判断力という観点が抜けている。
表現力［見本作品制作等］(25%)	全学生の見本となるような見本作品を作る表現力を持っている。	すぐれた見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作ることができても、表現力の観点が抜けている。	表現力という観点が抜けている。
総合的な力(25%)	思考力、判断力、表現力を結びつけ、全学生の見本となるような実践を行うことができる。	思考力、判断力、表現力を結びつけた、すぐれた実践を行うことができる。	思考力、判断力、表現力のどれかを結びつけた実践を行うことができる。	実践を行うことができても、思考力、判断力、表現力が結びついていない。	思考力、判断力、表現力の観点が抜けている。

評価方法

指導案・課題作品から、小学校教諭になる者としての思考力、判断力、表現力がどれくらいあるのか、上記の基準に照らしながら評価していく。(75%)
図工における総合的な力がどのくらい身についたか、上記の基準に照らしながら評価していく。(25%)

テキスト

・教科書名：小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 図画工作編
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：日本文教出版
・出 版 年（ISBN）：2018 年　(978-4536590112)

乳児保育Ⅰ　～乳児保育の基本を理解する～	関根　久美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教科書解説、実務経験を活かした教員の解説、DVD視聴などから、乳児保育の理念、基本について講義する。乳児の発達や援助方法などを理論的に理解できるよう講義する。また、学生同士のディスカッションも行う。講義だけでなく、具体的な保育実践について現場での実践に基づいて指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、乳児保育の意義・目的・歴史的変遷について
第 2 回	乳児保育の役割と機能について
第 3 回	日本の保育・子育ての支援のシステム
第 4 回	保育所における乳児保育、保育内容（養護と教育）、保育士の役割
第 5 回	3歳未満児とその家族をとりまく環境と子育て支援について
第 6 回	これからの日本の乳児保育の課題について
第 7 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助①
第 8 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助②
第 9 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助③
第10回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助④
第11回	乳児保育における環境（安全・清潔など）について
第12回	乳児保育における環境（人・物・自然・社会事象）について
第13回	乳児保育における計画・記録・評価について
第14回	乳児保育における連携・協働について
第15回	振り返りとまとめ

予習・復習

・予習：保育所保育指針、教科書を読んでおく。

・復習：授業内容のプリント、ノートを整理し、重要事項をチェックする。

履修上の注意

保育士を志す学生として遅刻、欠席をせず、主体的・積極的に授業に参加すること。

到 達 目 標

１、 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割などについて理解する。
２、 保育所をはじめとする多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
３、 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。
４、 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。
５、 乳児の遊びについて理解し、実践に繋げる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
乳児保育の意義と目的を理解する力（ 10%）	授業内容を越えた学修ができる。	授業内容をすべて理解することができる。	授業内容に興味関心をもち、理解するよう努める。	授業内容に興味関心が薄く、理解が浅い。	授業内容に興味関心がなく、理解ができない。
多様な保育現場の現状と課題を理解する力（ 10%）	多様な保育現場について自ら調査をし、現状の理解ができる。	多様な保育現場について理解することができる。	多様な保育現場について興味関をもち、理解するよう努める。	多様な保育現場について興味関心が薄く、理解が浅い。	保育現場に興味がなく、理解ができない。
3 歳未満児の発育発達を理解する力（ 50%）	3 歳未満児の発達について様々な情報を入手して理解ができる。	3 歳未満児の発育発達について授業により理解できる。	3 歳未満児の発達発育に興味をもち、理解するよう努める。	3 歳未満児に興味関心が薄く、教員の助言により理解する。	3 歳未満児に興味がなく、理解ができない。
保育実技を実践する資質（ 10%）	授業を越えた自主的な学修をして保育実践ができる。	声や表情に配慮した保育実技の実践ができる。	一人で保育実技の実践ができる。	周囲の人と共に保育実技の実践ができる。	保育実技の実践ができない。
課題作品に取り組む態度（ 20%）	課題以上の工夫を凝らした作品つくりに取り組む。	課題作品に前向き丁寧に取り組む。	課題作品に取り組む。	課題作品に雑な取り組みが見られる。	課題作品に取り組まない。

評価方法

試験　70%　　課題の評価　20%　　授業態度　10%

テキスト

・教科書名：乳児保育の基礎と実践
・著 者 名：関根久美　山本智子
・出版社名：大学図書出版
・出 版 年：2020 年（ISBN：978-4-909655-20-2）

乳児保育Ⅱ　～乳児保育の実践～	関根　久美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

乳児保育Ⅰで学修した理論を実践していくための指導をする。保育現場において保育方法の技術が向上するよう、実務経験を活かした具体的な実践方法を指導する。学生同士の意見交換や発表の場を多く設け、学生自らが考え、理論と実践が伴った保育ができるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　子どもと保育士等との関係の重要性
第 2 回	子どもの主体性の尊重と自己の育ち　子どもの体験と学びの芽生え
第 3 回	子どもの1日の生活の流れと保育の環境 子どもの生活や遊びを支える環境構成
第 4 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際①（抱っことおんぶ）
第 5 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際②（着替えとおむつ替え）
第 6 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際③（調乳と授乳）
第 7 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際④（おもちゃ作成）
第 8 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際⑤（おもちゃ作成と実践）
第 9 回	子ども同士の関わりとその援助の実際 集団での生活における配慮
第10回	長期的な指導計画　個別的な指導計画と集団の指導計画
第11回	短期的な指導計画の作成
第12回	指導計画の実践①
第13回	指導計画の実践②
第14回	指導計画の実践③
第15回	振り返りとまとめ

予習・復習

・予習：実践のための計画を立て、準備しておく。

・復習：授業での実践を各自、自宅、実習などで実践する。

履修上の注意

保育士を志す学生として遅刻、早退することなく主体的・積極的に授業に参加すること。

到 達 目 標

１、3 歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。
２、養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活と遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
３、乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。
４、上記 1～３を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解し実践する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
3 歳未満児の援助の考え方について理解する力（ 30%）	3 歳未満児の援助について積極的に情報を入手し理解ができる。	3 歳未満児の援助方法の考え方を授業により理解することができる。	3 歳未満児の援助方法を理解できる。	3 歳未満児の援助方法についての理解が薄い。	3 歳未満児の援助についての理解ができていない。
養護と教育の一体性を踏まえた保育方法について理解する力（ 30%）	養護と教育の一体性を踏まえた保育方法を保育所の役割を把握し、理解することができる。	養護と教育の一体性を踏まえた保育方法を理解できる。	養護と教育の一体性を踏まえた保育の理解は薄いが、保育方法については理解できる。	養護と教育の一体性を踏まえた保育についての理解が乏しく、保育方法の理解が難しい。	保育所保育に興味がなく、保育方法を理解できない。
乳児の遊びにおいての活動を実践する資質（ 20%）	子どもの発達に即した方法で実践を行い、臨機応変な対応ができる。	指導案に即した実践を積極的な態度で実践する。	指導案に即した実践ができるが、消極的である。	指導案に即した実践ができない。	人前での実践ができない。
乳児保育における指導計画を立案する能力（ 10%）	指導計画の学習を理解し、詳細で綿密な指導計画の立案ができる。	指導計画の学習を理解し、指導計画の立案ができる。	テキスト等から情報を入手し、指導計画の立案ができる。	教員の助言を受け、指導計画の立案ができる。	指導計画について理解ができず、立案ができない。
保育実践に対する積極性（ 10%）	子どもの前に立つ保育士の在り方を理解し、実践に取り組む。	自らが楽しんで保育実践に取り組む。	周囲の人の助言を受け保育実践に取り組む。	保育実践に取り組む態度が消極的である。	保育実践に取り組まない。

評価方法

試験 60%　保育実践 20%　指導計画 10%　授業態度 10%

テキスト

・教科書名：乳児保育の基礎と実践
・著 者 名：関根久美　山本智子
・出版社名：大学図書出版
・出 版 年 2020 年（ISBN：978-4-909655-20-2）

特別支援論Ⅰ（対象理解） ～特別支援教育の基礎・基本～	井上　昌士

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	後期	1	選択	必修	必修	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

障害のある子供に携わる教師，保育士として必要な特別支援教育に係る基礎・基本的事項について以下の 3 点を重点的に学ぶ。

- 障害児理解，支援方法に係る基礎・基本的事項
- 多様な学びの場における障害のある子供の教育課程や実践内容等
- 特別支援教育に関する現状と課題，諸制度等

公立特別支援学校での教育実践や国立特別支援教育研究所における研究活動等の実務経験に基づいて，上記の内容を詳しく講義する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：障害児・者との関わりと特別支援教育の理念 ※シラバス、授業の進め方の説明及び自分と障害児・者との今までの関わりについて確認する。
第 2 回	障害児教育の歴史と特別支援教育の現状 ※世界と日本における障害児教育の歴史を学び、障害の捉え方の変化について学ぶ。
第 3 回	視覚障害，聴覚障害の特性の理解と支援 ※視覚障害，聴覚障害の定義及び特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 4 回	知的障害の特性の理解と支援 ※知的障害の定義及び特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 5 回	肢体不自由，病弱・身体虚弱の特性の理解と支援 ※肢体不自由，病弱・身体虚弱の定義及び特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 6 回	言語障害，情緒障害の特性の理解と支援 ※言語障害，情緒障害の定義及び特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 7 回	発達障害①：自閉症の特性の理解と支援Ⅰ ※社会性の障害、コミュニケーションの障害の特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 8 回	発達障害②：自閉症の特性の理解と支援Ⅱ ※想像力の障害、感覚過敏等の特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 9 回	発達障害③：学習障害の特性の理解と支援 ※LD の定義と特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 10 回	発達障害④：注意欠陥／多動性障害等の特性の理解と支援 ※ADHD の定義と特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 11 回	共生社会の形成とインクルーシブ教育システムの構築に関する理解 ※インクルーシブ教育の背景やその理念の概要について学ぶ。
第 12 回	連続性のある多様な学びの場①　特別支援学校における指導の実際 ※特別支援学校の位置付けや対象障害種、教育課程等の概要について学ぶ。
第 13 回	連続性のある多様な学びの場②　特別支援学級における指導の実際 ※特別支援学級の位置付けや対象障害種、教育課程等の概要について学ぶ。
第 14 回	連続性のある多様な学びの場③　通級による指導，通常の学級での特別支援教育 ※通級による指導の位置付けや対象障害種、教育課程等の概要及び通常の学級における取組について学ぶ。
第 15 回	まとめ：特別支援教育を巡る状況の変化

予習・復習

- 予習：授業で取り扱う内容について，書籍やインターネットや新聞，TV 等を活用して情報収集を行う。
- 復習：資料（PPT スライド等）を用いて学んだ内容を整理して確認する。

履修上の注意

- 授業中の基本的マナーを守ること。
- 授業遅刻３回で欠席１回とする。
- 遅刻、早退、欠席については直接担当教員に申し出ること。
- やむを得ず授業を欠席した場合は，必ず授業資料を受け取りに来ること。

到達目標

- 障害や特別支援教育についての基礎・基本を理解する。
- 特別支援教育を巡る状況や現状の概要を理解する。
- 連続性のある多様な学びの場の概要を理解する

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
知識/理解度<何を理解しているか>（60%）	授業で扱った特別支援教育に係る基礎・基本的事項等に関する知識を理解しているとともに、実習等に活用できるレベルに達している。	授業で扱った特別支援教育に係る基礎・基本的事項等に関する知識を理解し、実習等への活用が期待できる。	授業で扱った特別支援教育に係る基礎・基本的事項等に関する知識は概ね理解しているが、不十分な内容がある。	授業で扱った特別支援教育に係る基礎・基本的事項等関する知識を最低限理解している。	授業で扱った特別支援教育に係る基礎・基本的事項等関する知識を理解するに至っていない。
レポート・発表力<思考・判断・表現：理解したことをどう使うか>（20%）	授業で習得した知識等を生かして、レポートや発表の内容が根拠に基づいて明確に示されている。	レポートや発表の内容が、授業で習得した知識等を踏まえて示されている。	レポートや発表の内容が、授業で習得した知識等を踏まえて示されているが、不十分な内容がある。	レポートや発表の内容が、十分に課題と関わっていない。	レポートや発表の内容が、課題と関わっていない。
主体的に学ぶ態度<どのように学びと向き合うか>（20%）	積極的に授業に参加するとともに、自らの学習状況を把握し、よりよく学ぼうとする意欲をもって取り組んでいる。	積極的に授業に参加し、理解したことを学びに生かそうと努力している。	授業に参加しているがやや積極性に欠け、理解したことを学びに生かそうすることがあまり見られない。	主体的に学ぶ態度にやや欠ける面が見られる。	主体的に学ぶ態度が見られない。

評価方法

学期末試験　60%
提出物，授業内レポート等 20%
受講態度　20%

テキスト

- 教科書は使用しないが，各回資料（PPT スライド等）を配布する。

特別支援論Ⅱ（乳・幼児への支援方法）　～特別な支援を要する乳・幼児への適切な支援を行うために～	井上　昌士

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	必修	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

特別支援論Ⅰの内容を踏まえ，特別な支援を要する子どもの支援について、以下の3点を重点的に学ぶ。

- 障害児保育の基本的知識
- 子どもの理解と発達の援助
- 家庭及び関係機関との連携

公立特別支援学校での教育実践や国立特別支援教育研究所における研究活動等の実務経験に基づいて，上記の内容を詳しく講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　「障害のある子どもとは」 ※シラバス、授業の進め方についての説明及び「障害」の捉えについて学ぶ。
第 2 回	気になる子どもとは ※「気になる子ども」とはどういう子どもなのか実習体験を踏まえて協議する。
第 3 回	障害に関する法律・制度の理解 ※新しい児童福祉施設のサービス体系や障害者手帳等の制度等について学ぶ。
第 4 回	障害のある子どもの特徴（1）　感覚と運動 ※感覚の特性に配慮した支援について学び、具体的な方法について協議する。
第 5 回	障害のある子どもの特徴（2）　認知・コミュニケーション ※認知の発達やコミュニケーションの発達について学び、具体的な支援について協議する。
第 6 回	障害のある子どもの保育における理解 ※統合教育のとらえ方と必要性について学び、理解を深める。
第 7 回	障害のある子どもに配慮した環境設定 ※応用行動分析学のABC分析を使い、気になる子どもの行動変容についての演習を行う。
第 8 回	障害のある子どもに配慮した関わりとコミュニケーション ※生活の自立に向けた支援、障害特性に合わせた環境構成について学ぶ。
第 9 回	障害のある子どもと他の子どもとの関わり ※他の子どもとの関係の支援、他の子どもの理解について学ぶ。
第10回	保護者・家族との理解と支援 ※障害のある子ども・気になる子どもの保護者の心理について学び、その支援について協議する。
第11回	地域の関係機関との連携と個別の支援計画 ※地域の関係機関の機能を調べ、個別の支援計画との連携について学ぶ。
第12回	就学支援と小学校との連携 ※就学先と就学支援システムについて、就学に向けての保護者支援について協議する。
第13回	個別支援計画の作成と観察・記録・評価 ※保育における指導計画の位置づけと個別指導計画を立てることの大切さについて学ぶ。
第14回	インクルーシブ保育について ※統合保育とインクルーシブ保育の相違点について、事例を通して整理する。
第15回	まとめ　障害児保育の現状と課題

予習・復習

- 予習：次回の授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読み、概要を把握しておく。
- 復習：復習：教科書と授業で使用した資料等を使って学んだ内容を整理し確認する。

履修上の注意

- 授業中の基本的マナーを守ること。
- 授業遅刻３回で欠席１回とする。
- 遅刻、早退、欠席については直接担当教員に申し出ること。
- やむを得ず授業を欠席した場合は，必ず授業資料を受け取りに来ること。

到 達 目 標

- 特別な支援を要する子どもへの具体的な支援方法を理解する。
- 関係する専門機関の機能やその役割について理解する。
- 保護者への支援について，その具体的な方法や内容について理解する。
- 保育の記録や個別の支援計画の役割や必要性、活用について理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
知識/理解度<何を理解しているか>(60%)	授業で扱った障害保育等に関する知識を理解しているとともに、実習等に活用できるレベルに達している。	授業で扱った障害保育等に関する知識を理解し、実習等への活用が期待できる。	授業で扱った障害保育等に関する知識は概ね理解しているが、不十分な内容がる。	授業で扱った障害保育等に関する知識を最低限理解している。	授業で扱った障害保育等に関する知識を理解するに至っていない。
レポート・発表力<思考・判断・表現：理解したことをどう使うか>(20%)	授業で習得した知識等を生かして、レポートや発表の内容が根拠に基づいて明確に示されている。	レポートや発表の内容が、授業で習得した知識等を踏まえて示されている。	レポートや発表の内容が、授業で習得した知識等を踏まえて示されているが、不十分な内容がる。	レポートや発表の内容が、十分に課題と関わっていない。	レポートや発表の内容が、課題と関わっていない。
主体的に学ぶ態度<どのように学びと向き合うか>(20%)	積極的に授業に参加するとともに、自らの学習状況を把握し、よりよく学ぼうとする意欲をもって取り組んでいる。	積極的に授業に参加し、理解したことを学びに生かそうと努力している。	授業に参加しているがやや積極性に欠け、理解したことを学びに生かそうすることがあまり見られない。	主体的に学ぶ態度にやや欠ける面が見られる。	主体的に学ぶ態度が見られない。

評価方法

学期末試験　60%
提出物，授業内レポート等 20%
受講態度　20%

テキスト

・教科書名：障害児保育
・著 者 名：監修　市川奈緒子
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年（ISBN）：2020 年　978-4623087631

特別支援論Ⅲ（児童への支援方法）

～特別な教育的ニーズを要する児童に要する具体的な支援～

井上　昌士

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	1	選択	－	必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

特別支援論Ⅰの内容を踏まえ，小学校に在籍する特別な教育的ニーズを要する児童への支援について、具体的な支援や指導内容等の検討・演習を通して以下の4点を重点的に学ぶ。

- 小学校における特別支援教育体制
- 特別な教育的ニーズを要する児童への具体的な支援方法
- 各教科等における指導内容や指導方法の工夫
- 通常の学級，通級による指導，特別支援学級における指導の実際

公立特別支援学校での教育実践や国立特別支援教育研究所における研究活動等の実務経験に基づいて，上記の内容を詳しく講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　特別な教育的ニーズとは　インクルーシブ教育とは ※シラバス及び授業の進め方を説明し、特別支援教育の理念、インクルーシブ教育の動向を確認する。
第 2 回	小学校における特別支援教育体制の理解 ※多様な学びの場の連続性としての特別支援学級、通級による指導、通常の学級の支援体制について学ぶ。
第 3 回	学習指導要領から読み解く小学校における特別支援教育 ※小学校学習指導要領及び同解説総則編に示されている「障害のある児童などへの指導」の内容について確認し、ポイントとなる事柄について学ぶ。
第 4 回	各教科等における指導内容や指導方法の工夫 ※小学校学習指導要領解説の各教科編に示されている指導内容や指導方法の工夫について学ぶ。
第 5 回	障害のある子を対象とした学習指導案の作成 ※目標設定や実態把握、学習評価等、障害のある子を対象とした学習指導案の作成する際に留意すべき点について具体的な事例を通して学ぶ。
第 6 回	「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の作成と活用 ※学習指導要領に示されている位置付けや留意点を確認し、作成する意義、必要性について学ぶ。
第 7 回	ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた支援の工夫 ※授業におけるユニバーサルデザインについて事例を通して、その工夫や効果を協議する。
第 8 回	知的障害児への支援 ※小学校に在籍する知的障害児への具体的な指導内容や指導方法等について学ぶ。
第 9 回	発達障害のある児童への支援① ※小学校に在籍する自閉症スペクトラムのある児童への具体的な支援方法について学ぶ。
第10回	発達障害のある児童への支援② ※小学校に在籍するLD,ADHDの児童への具体的な支援方法について学ぶ。
第11回	模擬授業① ※先生役、児童役等役割分担をして模擬授業を行い、終了後に反省会を開き振り返りを行う。
第12回	模擬授業② ※先生役、児童役等役割分担をして模擬授業を行い、終了後に反省会を開き振り返りを行う。
第13回	模擬授業③ ※先生役、児童役等役割分担をして模擬授業を行い、終了後に反省会を開き振り返りを行う。
第14回	特別支援教育コーディネーターと校内支援体制及び保護者への支援 ※小学校等で特別支援教育を行うための体制の整備及び必要な取組について、その具体的な内容について学ぶ。
第15回	帰国子女や日本語の習得が困難な児童及び不登校児童への指導 ※指導の在り方について、小学校学習指導要領解説総則編に示されている内容を確認して、その内容等について学ぶ。

予習・復習

- 予習：次回の授業内容に関連する学習指導要領等の該当部分を事前に確認しておく。必要に応じて課題を提示する。
- 復習：教科書と授業で使用した資料等を使って学んだ内容を整理し確認する。

履修上の注意

- 授業中の基本的なマナーを守ること。
- 遅刻３回で欠席１回とする。
- 遅刻、早退、欠席については直接担当教員に申し出ること。
- やむを得ず授業を欠席した場合は，必ず授業資料を受け取りに来ること。

到 達 目 標

- 指導の実際を知り、小学校における特別支援教育体制を理解する。
- 特別な教育的ニーズを要する児童への具体的な支援方法を理解する。
- 各教科等のおける具体的な指導内容や指導方法の工夫について理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
知識/理解度<何を理解しているか>（60%）	授業で扱った小学校に在籍する特別な教育的ニーズを要する児童への支援内容等に関する知識等を理解しているとともに、実習等に活用できるレベルに達している。	授業で扱った小学校に在籍する特別な教育的ニーズを要する児童への支援内容等に関する知識等を理解し、実習等への活用が期待できる。	授業で扱った小学校に在籍する特別な教育的ニーズを要する児童への支援内容等に関する知識等は概ね理解しているが、不十分な内容がある。	授業で扱った小学校に在籍する特別な教育的ニーズを要する児童への支援内容等に関する知識等を最低限理解している。	授業で扱った小学校に在籍する特別な教育的ニーズを要する児童への支援内容等に関する知識等を理解するに至っていない。
模擬授業/レポート発表力<思考・判断・表現：理解したことをどう使うか>（30%）	授業で習得した知識等をいかして、模擬授業の指導案やレポートが作成され、課題やテーマが明確に表現され、今後の工夫や課題点も示されている。	授業で習得した知識等を生かして、模擬授業の指導案やレポートが作成され、課題やテーマが表現されている。	模擬授業の指導案やレポートの発表内容は、授業で習得した知識等を踏まえて示されているが、一部不十分な内容がある。	模擬授業やレポートの内容が、十分に指導案や課題と関わっていない。	模擬授業やレポートの内容が、指導案や課題と関わっていない。
主体的に学ぶ態度<どのように学びと向き合うか>（20%）	積極的に授業に参加するとともに、自らの学習状況を把握し、よりよく学ぼうとする意欲をもって取り組んでいる。	積極的に授業に参加し、理解したことを学びに生かそうと努力している。	授業に参加しているがやや積極性に欠け、理解したことを学びに生かそうすることがあまり見られない。	主体的に学ぶ態度にやや欠ける面が見られる。	主体的に学ぶ態度が見られない。

評価方法

学期末試験　50%
模擬授業（指導案，教材制作を含む），授業内レポート等 30%
受講態度　20%

テキスト

- 教科書名：①小学校学習指導要領②小学校学習指導要領解説総則編③特別支援学校学習指導要領解説自立活動編
- 著 者 名：①～③文部科学省
- 出 版 社 名: ①②東洋館出版社　③開隆堂出版
- 出 版 年：①～③2018
- ＩＳＢＮ：①978-4-491-03460-7　②978-4-491-03460-4　③978-4-304-04231-7

教職･保育概論(教育制度等を含む)

～保育者・教員の魅力と責務～

小林　佳美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	前期	2	選択	必修	必修	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

現代の乳幼児と子育て家庭を取り巻く環境を広い視野で捉え、保育・幼児教育の重要性や保育職・教職の意義と役割等を講義する。特に前半では、保育者の制度・法令上の位置付け、服務・身分の義務と職務内容に関する基本的事項を講義する。また、様々な事例や視聴覚教材をとおして、子どもにかかわる専門職として求められる資質・能力、及び保護者・家庭支援の姿勢や専門職としての学びの必要性が理解できるようにする。後半では、保育の意義と目的、及び保育実践を支える基本的な理論と諸制度を講義する。さらに、教育専門紙、保育図書の記者・編集者としての実務経験をもとに、現代の社会的コンテクストにより生み出されている子ども・家庭の多様な課題に、保育者・教員はどのような具体的貢献ができるのかということに言及する。

授 業 計 画

第 1 回	**オリエンテーション**―保育、養護、教育等、基本用語を確認し「保育」という言葉の意味を知る。被保育体験から子どもにとってのうれしい保育者・教員像を考える。
第 2 回	**様々な保育施設①**―自分の通っていた園を振り返り、多様な保育施設があること、及び施設類型に関連する諸制度にふれる。
第 3 回	**様々な保育施設②**―多様な保育施設とそこで働く保育者の 1 日にふれ、保育者・教員をとりまく資格と制度を理解する。
第 4 回	**現代社会が求める保育・教育①**―Society5.0 時代に生きる子どもたちの育ちを支えるために、指針・要領の改訂動向にふれ、「子ども主体」の保育・教育の意義を理解する。
第 5 回	**現代社会が求める保育・教育②**―10 円玉ピカピカプロジェクトで「遊びのなかの学び」を理解する。
第 6 回	**現代社会が求める保育・教育③**―「なってみる」子ども理解を通して、養護と教育の一体的な展開の意味、振り返り(省察)の意味・意義を理解する。
第 7 回	**計画と評価の基本①**―指針・要領における「ねらい」から、方向目標の概念を理解する。園の理念と保育の特徴の関連の検討を通して、自らの保育観を見つめる。
第 8 回	**計画と評価の基本②**―ペーパークロマトグラフィの色遊びを題材に、ウェブ型記録・計画用ツールを用いて記録と計画、実践のサイクルを理解する。
第 9 回	**計画と評価の基本③**―グループワークを通して保育・教育における PDCA の意味・意義を考える。
第 10 回	**計画と評価の基本④**―なぜ計画・評価が必要なのか、保育・教育の現場ではどのような計画・評価が行われているのか、カリキュラムマネジメントの全体像を把握する。
第 11 回	**子どもの権利と保育者の倫理①**―コルチャック先生の実践から、ユニセフ「児童の権利条約カード」を題材に子どもの権利について考える。
第 12 回	**子どもの権利と保育者の倫理②**―絵本･動画を活用した保育における子どもの人権意識の変遷と現状を理解したうえで、全国保育士会「人権擁護のためのセルフチェックリスト」による事例検討を行う。
第 13 回	**子どもの権利と保育者の倫理③**―貧困の連鎖による結果の不平等と児童虐待の関連にふれ､保育施設や保育者の義務と役割を考える。多様な社会資源の存在を知る。
第 14 回	**子どもの権利と保育者の倫理④**―炎上 CM から現代の子育てを困難にする社会的要因を考え、保育・教育の場における多様な子育て支援の展開を知る。
第 15 回	**保育者の職業キャリアを通じた専門性向上の必要性・振り返りテスト**

予 習 ・ 復 習

・予習：授業計画に沿って参考書籍や関連する保育のニュース記事を一読することを推奨する。
・復習：授業での配布資料等をノートに整理することで理解を深めることを推奨する。

履修上の注意

・試験では手書きノート、授業での配布物の閲覧を可とします。
・3 回の遅刻で 1 回の欠席、20 分以降の入室は欠席として扱います。

到 達 目 標

・保育者・教員に求められる職務内容の全体像や制度上・身分上の義務を理解する。
・保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明できるようになる。
・保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性を理解する。
・乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を理解し、各施設の社会的役割を説明できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
保育者・教員に求められる職務内容の全体像や制度上・身分上の義務を理解する。（25%）	保育者・教員に求められる職務内容の全体像や制度上・身分上の義務を十分理解している。	保育者・教員に求められる職務内容の全体像や制度上・身分上の義務を理解している。	保育者・教員に求められる職務内容の全体像は理解しているが、制度上・身分上の義務を理解していない。	保育者・教員に求められる職務内容の全体像も制度上・身分上の義務も理解していない。	保育者・教員に求められる職務内容の全体像、及び制度上・身分上の義務に関する理解度を問う課題を提出しない。
保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明できるようになる。（25%）	保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で、他者が理解できるように説明できる。	保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明できる。	保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明するが、偏っており、十分でない。	保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明しようとするが、偏っているうえに、意味不明である。	保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で述べようとしない。
保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性を理解する。（25%）	保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性を十分理解し、その実践例を述べることができる。	保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性を理解している。	保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性を十分に理解していない。	保護者や地域社会、専門機関とはどのような人・組織を指しているのかを理解していない。	保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性の理解度を問う課題を提出しない。
乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を理解し、各施設の社会的役割を説明できるようになる。（25%）	乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を理解し、各施設の社会的役割を他者が理解できるように、適切に説明できる。	乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を最低限は理解し、各施設の社会的役割を説明できる。	乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を理解しているが、各施設の社会的役割を説明できない。	乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を理解していない。	乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項や、各施設の社会的役割の理解度を問う課題を提出しない。

評 価 方 法

授業態度（発表・リフレクションシート・グループワーク等で評価）　40%、試験 40%、授業内レポート　20%
※評価方法の詳細は第 1 回目に説明するので、必ず出席してください。

テ キ ス ト

・『幼稚園教育要領/保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉（平成 29 年告示）（チャイルド本社）

教育実習指導（事前事後）（幼稚園）　～教育実習を有意義な体験にするために～	木谷・関根・佐々木・小林・大多和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	必修	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ（幼稚園）それぞれについて、実習に向けての事前指導と実習を終えてからの事後指導を講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	教育実習の概要と事前事後指導の流れ
第 2 回	実習先事前訪問（オリエンテーション）について
第 3 回	実習生としてのマナーと心構え
第 4 回	課題を明確にして教育実習に取り組むために
第 5 回	実習日誌について①―日誌の意義を理解する
第 6 回	実習日誌について②―日誌の書き方を学ぶ
第 7 回	「教育実習Ⅰ」の振り返りと「教育実習Ⅱ」に向けた自己課題
第 8 回	「教育実習Ⅱ」学内オリエンテーション
第 9 回	「教育実習Ⅱ」実習先事前訪問（オリエンテーション）について
第10回	実習日誌について③―場面の記録の書き方を理解する
第11回	指導案作成①―指導案の意義を理解する
第12回	指導案作成②―指導案の書き方を学ぶ
第13回	指導案作成③―指導案に沿った保育の展開を理解する
第14回	教育実習Ⅱの課題と心構え
第15回	「教育実習Ⅱ」の振り返りと今後の課題

予習・復習

(1) 予習：次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える。
(2) 復習：課題を完成させ、期日内に提出できるように自主的に準備を進める。

履修上の注意

・事前指導は、欠席が2割を超えた場合、実習を実施できない。
・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること。

到 達 目 標

. 教育実習Ⅰ

・マナーを守り、意欲的に教育実習Ⅰに取り組むために課題を明確して実習に臨む。
・3 歳から 5 歳の発達を理解し、幼児の「前に立つ」ための準備をして実習に臨む。
・保育の流れやつながりを理解して時系列に記録ができるようになり実習に臨む。
・期日を守り提出物や実習の手続きを自主的に進められる。
・教育実習Ⅰを振り返り、教育実習Ⅱの課題を明確にできる。

2. 教育実習Ⅱ

・実習園の特色や保育方針等を理解し、課題を明確にして実習に臨む。
・保育者の援助の意図を感じ取り、「気づき」を日誌に書くことができるようになって実習に臨む。
・＜導入、展開、まとめ＞の一連の流れを指導案として作成できる。
・子どもの姿を予測し配慮事項や留意点を挙げることができ、指導計画の準備をして実習に臨む。
・期日を守り提出物や実習の手続きを計画的に進められる。
・教育実習Ⅱを振り返り、今後の課題を明確にできる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習の流れの理解と準備に対する取り組み（40%）	実習の流れを理解し、主体的、積極的に準備に取り組む。	実習の流れを理解し、教員の見守りのもと準備に取り組む。	実習の流れの理解にやや不安があり、教員の助言を受け、準備に取り組む。	実習の流れの理解が不足していて、教員の助言・援助を受け準備に取り組む。	実習の流れを理解することができず、準備することが難しい。
幼稚園の理解（10%）	幼稚園教育の意義、幼稚園の役割、幼児理解について積極的に学び、十分に理解している。	幼稚園教育、幼稚園の役割、幼児理解について学ぶ意欲があり、ほぼ理解できている。	幼稚園に対する理解への意欲は見られるが、理解について不十分な部分がある。	幼稚園に対する理解への意欲は乏しいが、教員の指示や助言によって学ぼうとする。	幼稚園に対する興味・関心が見られず、実習生としての学びがなされていない。
実習課題の作成（10%）	実習においての学びの具体的な見通しがもて、自分自身で課題の作成ができる。	実習においての見通しがもて、教員の助言により課題の作成ができる。	実習においての見通しに不安があるが、教員の具体的な助言によって課題の作成ができる。	実習においての見通し、具体的な課題について教員の個別指導を受け課題を作成する。	実習においての見通しが持てず、課題を作成することが難しい。
日誌記述に対する理解（20%）	実習日誌の意義、記述についての説明を十分に理解している。	日誌の記述についての説明を理解している。	日誌の記述についての理解に不足が見られるが、実習中の記述はできると予想される。	日誌の記述についての理解が不十分であるか、現場での学びによって記述できる可能性がある。	日誌の記述について理解できず、「書く」ことが難しい。
指導案作成に対する理解（20%）	指導案の意義、記述について理解しており、事前授業において主体的に立案できる。	指導案の記述について理解しており、教員の助言により、立案できる。	指導案の記述においての理解がやや不足しているが、教員の指導助言をうけ、立案できる。	指導案の記述についての理解が不十分であるが、教員の個別指導を受け、現場での学びによって記述できる可能性がある。	指導案の記述について理解できず、「立案」することが難しい。

評価方法

授業態度・課題の提出物により、総合的に評価する。

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、最新版
小櫃智子編『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社、2015 年
（ISBN）978-4-907270-15-5

教育実習Ⅰ（幼稚園）　～幼児理解・幼稚園教諭の仕事の理解に向けて～	木谷、関根、佐々木、小林、大多和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	－	2	選択	必修	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

実際に幼稚園の生活や教育活動を体験する中で、園生活の流れと幼児の生活、発達の姿、幼稚園教諭の職務を理解できるよう指導する。

授業計画

（1）実習期間

2024年11月18日～11月29日（10日間）

（2）実習内容

・観察、参加実習を通して、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。
・実習園の指導のもと、幼児の「前に立つ」ことを体験し省察する。

予習・復習

（1）予習　①実習先事前訪問にもとづいて、実習園の概要を理解する。
②教育実習事前指導を受講し、実習の目標を定める。
③実習中は次の日の実習課題を明確にするとともに、教材準備等に努める。

（2）復習　①実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。

履修上の注意

（1）教育実習Ⅰを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること
②「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の授業に原則全出席していること
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
④「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の到達目標に達していること

（2）教育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
教育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度
・マナーを守り、意欲的に取り組む。
・礼儀正しく、謙虚な姿勢で学ぶ。
・自分から進んで質問をし、実践的な学びを深める。

2. 知識および技能
・幼児の「前に立つ」ための準備をして実習に臨む。
・3歳児から5歳児の発達を理解し実習に臨む。

3. 実習日誌
・各年齢の発達の特徴や保育の流れやつながりを理解して時系列に記録ができる。
・幼児に対する保育者の働きかけを具体的に記録できる。
・幼児の姿を観察し、場面の記録を書くことができる。
・「気づき」を書くことができる。

4. 指導案
※教育実習Ⅰでは、記録に重点を置き、指導案は教育実習Ⅱの課題とする。

5. 手続きと提出物
・期日を守り、自主的に進められる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（40%）	指導や助言を受け入れ、実習に積極的・主体的に取り組む	指導や助言を受け入れ、実習に意欲的に取り組む	指導や助言を受け入れ、努力する姿勢がみられる	遅刻や欠席はないが、実習への取り組みが不十分である	連絡のない欠席や遅刻をし、実習への意欲が感じられない
教育活動の実践（20%）	幼児に対する教育活動を、積極的・主体的に行う	幼児に対する教育活動を、意欲的に行う	幼児の前に立って教育活動をしようとする努力がみられる	教育活動において幼児に対する配慮が不十分である	幼児の前にたって教育活動を行うことができない
幼児の理解（20%）	年齢ごとの発達を理解し、実際の子どもの姿からそれを確認できる	幼児の興味や関心を理解し、教育活動につなげることができる	幼児の姿を観察し、幼児の興味や関心を理解する	観察が不足し、幼児の興味や関心への理解が不十分である	幼児への理解が不足し、幼児に対する興味・関心が薄い
園への理解（10%）	教育理念や保育者の役割を理解し、積極的・主体的に学ぶことができる	教育理念や保育者の役割を理解し、意欲的に学ぶことができる	教育理念や保育者の役割について学ぶ姿勢がみられる	教育理念や保育者の役割についての学びが不十分である	学校の理念や役割への理解が薄い
実習の記録（10%）	時系列で具体的に教育活動を記録でき、場面の記録や実習生の気づきの記載も十分である	時系列で具体的に教育活動を記録でき、実習生の気づきの記載もある	時系列に教育活動を記録できるが、具体性や気づきが薄い	指導や助言を受けて日誌を提出するが、記録すべき内容が記載されていない	日誌の記載が不十分であり、指導や助言を受け入れられない

評価方法

実習園による評価（評価観点：実習態度・幼稚園理解・幼児理解）および実習日誌を、総合して評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

なし

教育実習Ⅱ（幼稚園）　～幼稚園教諭として必要な能力・技術について学ぶ～	木谷、関根、佐々木、小林、大多和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	－	2	選択	必修	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教育実習Ⅰでの経験を基礎として、観察や指導案に基づいた実践を行う。幼稚園の教育理念や教育課程を把握し、「個」と「集団」の理解、幼稚園教諭の職務に対する理解等がさらに深まるよう指導する。また、指導案を作成し実践的な体験を通して学べるよう指導する。

授業計画

（1）実習期間
2024年6月3日～6月14日（10日間）
（2）実習内容
参加実習の他、指導案を作成し部分実習・責任実習を行い、実践的に学ぶ。

予習・復習

（1）予習　①実習先事前訪問にもとづいて、実習園の概要を理解する
②教育実習事前指導を受講し、実習の目標を定める
③実習中は次の日の実習課題を明確にするとともに、教材準備等に努める
（2）復習　実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める

履修上の注意

（1）教育実習Ⅱを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること
②「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の授業に原則全出席していること
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
④「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の到達目標に達していること
（2）教育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
教育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度
・実習園の特色や保育方針等を理解し、課題を明確にして実習に臨む
・「今日の課題」を考察し、「明日の課題」を明確にしながら学びを積み上げようとする
・「個」と「集団」に積極的に関わり、観察し学びを深める

2. 知識および技能
・保育におけるPDCAサイクルを理解する
・ピアノや絵本の読み聞かせなど、保育技術を磨いて実習に臨み、実践の場においてさらなる向上を目指す
・幼児の言動から心情を感じ取りながら、関わることができる

3. 実習日誌
・保育者の意図を感じ取り「学び」や「気づき」を書くことができる
・「個」と「集団」の姿を記録できる
・幼児との関わりを詳細に記録し、省察することができる。

4. 指導案
・子どもの姿を予測し、配慮事項や留意点を挙げることができる
・導入、展開、まとめを一連の流れとして立案できる

5. 手続きと提出物
・期日を確認し、計画的に進められる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度 (30%)	指導や助言を受け入れ、実習に積極的・主体的に取り組む	指導や助言を受け入れ、実習に意欲的に取り組む	指導や助言を受け入れ、努力する姿勢がみられる	遅刻や欠席はないが、実習への取り組みが不十分である	連絡のない欠席や遅刻をし、実習への意欲が感じられない
教育活動の実践 (10%)	幼児に対する教育活動を、積極的・主体的に行う	幼児に対する教育活動を、意欲的に行う	幼児の前に立って教育活動をしようとする努力がみられる	教育活動において幼児に対する配慮が不十分である	幼児の前にたって教育活動を行うことができない
幼児・児童の理解 (20%)	年齢ごとの発達を理解し、実際の子どもの姿からそれを確認できる	幼児の興味や関心を理解し、教育活動につなげることができる	幼児の姿を観察し、幼児の興味や関心を理解する	観察が不足し、幼児の興味や関心への理解が不十分である	幼児への理解が不足し、幼児に対する興味・関心が薄い
学校への理解 (10%)	教育理念や保育者の役割を理解し、積極的・主体的に学ぶことができる	教育理念や保育者の役割を理解し、意欲的に学ぶことができる	教育理念や保育者の役割について学ぶ姿勢がみられる	教育理念や保育者の役割についての学びが不十分である	学校の理念や役割への理解が薄い
実習の記録 (20%)	時系列で具体的に教育活動を記録でき、場面の記録や実習生の気づきの記載も十分である	時系列で具体的に教育活動を記録でき、実習生の気づきの記載もある	時系列に教育活動を記録できるが、具体性や気づきが薄い	指導や助言を受けて日誌を提出するが、記録すべき内容が記載されていない	日誌の記載が不十分であり、指導や助言を受け入れられない
責任実習 (10%)	指導案作成を含む準備が万全であり、当日も責任感を持って子どもの姿に配慮し臨機応変に保育を展開する	指導案作成を含む準備が十分であり、当日も責任感を持って子どもの姿に配慮して保育を展開する	指導案を作成し、当日は保育者として責任感をもって子どもの姿に配慮して保育を展開する	指導案を作成し保育活動を展開するものの、準備不足や柔軟性に課題がみられる	指導案を含む準備が不十分で、保育活動の展開に困難を伴う

評価方法

実習園による評価（評価観点：実習態度・幼稚園理解・幼児理解）及び実習日誌を、総合して評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

なし

教育実習指導（事前事後）(小学校)

～実り多い実習を実現して今後へ生かす～

長沼・一色

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年・2年	後期・前期	1	選択	－	必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

事前指導においては、各自が、小学校教育の役割と教育実習の意義・目的を理解し、実習への心構えを整えられるように指導する。

事後指導においては、実習で学んだことを整理するとともに、今後の実践的指導力を培うために自らの課題を明確にできるよう指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	【事前指導】ガイダンス、小学校における教育実習の意義・目的、教育実習の概要
第 2 回	教育実習上の諸注意 オリエンテーションへの参加 心構え
第 3 回	児童と学校生活（1）学校の現状・諸問題と対応
第 4 回	児童と学校生活（2）児童の諸問題と対応
第 5 回	教師の服務（1）学校目標、学年・学級の指導目標、校務分掌、教育環境、学期・月・週・ 日程および教師の仕事の流れ、カリキュラムと時間割
第 6 回	教師の服務（2）教科指導とその他の指導、学級運営、地域・保護者との連携・対応
第 7 回	指導の実際（1）実習生としての児童への接し方、言葉遣い・態度
第 8 回	指導の実際（2）場面指導の具体例
第 9 回	指導の実際（3）学習指導の実践事例―授業設計と教材研究―
第 10 回	指導の実際（4）学習指導の実践事例―授業設計と指導案の書き方―
第 11 回	指導の実際（5）学習指導の実践事例―授業実践―
第 12 回	指導の実際（6）学習指導の実践事例―授業評価―
第 13 回	教育実習参加についてのまとめ―教師としての抱負をもつ―、実習日誌の書き方
第 14 回	【事後指導】（1）実習の報告・反省
第 15 回	（2）実習のまとめ、各自の今後の課題

予 習 ・ 復 習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

・事前指導は、欠席が 2 割を超えた場合、実習を実施できない。
・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること。
・1 年間にわたる科目のため、実際には 20 回程度の授業回数となる予定。

到 達 目 標

事前指導を通じて、自信を持って教育実習へ臨むことができるよう十分な力を身につけること。
また、事後指導を通じて、実習で学んだ成果を今後の教育実践に役立てられるよう万全の準備をすることができるようになること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（20%）	指導や助言を受け入れ、実習に積極的・主体的に取り組もうとする。	指導や助言を受け入れ、実習に意欲的に取り組もうとする。	指導や助言を受け入れ、努力する姿勢がみられる。	遅刻や欠席はないが、実習へ臨む取り組みが不十分である。	連絡のない欠席や遅刻をし、実習への意欲が感じられない。
教育活動の実践（30%）	指導案作成を含む準備が万全であり、責任感を持って児童の姿に配慮し臨機応変に教育活動を展開しようとする。	指導案作成を含む準備が十分であり、責任感を持って子どもの姿に配慮して教育活動を展開しようとする。	指導案を作成し、教師として責任感をもって子どもの姿に配慮して教育活動を展開しようとする。	指導案を作成し教育活動を展開しようとするものの、準備不足や柔軟性に課題がみられる。	指導案を含む準備が不十分で、教育活動の展開に困難を伴うことが予想される。
児童理解（20%）	年齢ごとの発達を理解し、実際の児童の姿からそれを確認しようとする。	児童の興味や関心を理解し、教育活動につなげようとしている。	児童の姿を観察し、幼児の興味や関心を理解しようとしている。	観察への努力が不足し、児童の興味や関心への理解が不十分である。	児童への理解が不足し、幼児に対する興味・関心が薄い。
学校についての理解（10%）	教育理念や教師の役割を理解し、積極的・主体的に学ぼうとしている。	教育理念や教師の役割を理解し、意欲的に学ぼうとしている。	教育理念や教師の役割について学ぶ姿勢がみられる。	教育理念や教師の役割についての学びが不十分である。	学校の理念や役割への理解が薄い。
実習の記録（20%）	時系列で具体的に教育活動を記録でき、場面の記録や実習生の気づきの記載を十分に行おうとしている。	時系列で具体的に教育活動を記録でき、実習生の気づきの記載ができる。	時系列に教育活動を記録できるが、具体性や気づきが薄い。	指導や助言を受けて日誌を提出しようとするが、記録すべき内容が記載されていない。	日誌の記載が不十分であり、指導や助言を受け入れられない。

評価方法

授業の成果（模擬授業を含む）100%

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』
著 者 名：文部科学省
出版社名：東洋館
出 版 年：平成 30 年
・教科書名：『小学校教育実習ガイド（第２版）』
著 者 名：石橋裕子・梅澤実・林幸範編著
出版社 名：萌文書林
出 版 年：2019 年

教育実習Ⅰ（小学校）　～より良い教師になるということ～　こども学科専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	－	2	選択	－	必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

・小学校における教科、特別の教科「道徳」、および特別活動について、その指導法を観察し、 大学での講義と関連付けて理解を深める。
・児童について、各学年の相違を知・徳・体それぞれの発達面を勘案して学ぶ。
・実習校の学校目標・沿革・児童数・地域・施設設備等の特徴を把握し、学校運営における 教師の任務や役割等について理解を深める。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション(1) 実習に参加の挨拶と学校説明を受ける。
第 2 回	オリエンテーション(2) 配属クラスの授業進捗状況と実習前準備について
第 3 回	実習初日のオリエンテーション、校長からの訓話、自己紹介
第 4 回	クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第 5 回	朝礼での全校生徒を前にした自己紹介。クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第 6 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 7 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 8 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 9 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 10 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 11 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 12 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 13 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 14 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 15 回	教育実習反省会。教育実習Ⅱへの課題と準備の確認。

予習・復習

・予習：授業等の準備
・復習：実習日誌の作成

履修上の注意

実習は全出席するものであり、遅刻、早退は許されない。
また、社会通念から逸脱した行為があれば、実習の中止となる。

到 達 目 標

教科、特別の教科「道徳」、特別活動について、実際にどういった授業がなされているか理解 し、自ら授業案を作成できるよう課題を持つ。
教師の任務役割について理解し、自らが教育を行うことについて明確化する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（30%）	指導や助言を受け入れ、実習に積極的・主体的に取り組む。	指導や助言を受け入れ、実習に意欲的に取り組む。	指導や助言を受け入れ、努力する姿勢がみられる。	遅刻や欠席はないが、実習への取り組みが不十分である。	連絡のない欠席や遅刻をし、実習への意欲が感じられない。
教育活動の実践（20%）	児童に対する教育活動を、積極的・主体的に行う。	児童に対する教育活動を、意欲的に行う。	児童の前に立って教育活動をしようとする努力がみられる。	教育活動において児童に対する配慮が不十分である。	児童の前にたって教育活動を行うことができない。
児童理解（20%）	年齢ごとの発達を理解し、実際の児童の姿からそれを確認できる。	児童の興味や関心を理解し、教育活動につなげることができる。	児童の姿を観察し、幼児の興味や関心を理解する。	観察が不足し、児童の興味や関心への理解が不十分である。	児童への理解が不足し、幼児に対する興味・関心が薄い。
学校についての理解（10%）	教育理念や教師の役割を理解し、積極的・主体的に学ぶことができる。	教育理念や教師の役割を理解し、意欲的に学ぶことができる。	教育理念や教師の役割について学ぶ姿勢がみられる。	教育理念や教師の役割についての学びが不十分である。	学校の理念や役割への理解が薄い。
実習の記録（20%）	時系列で具体的に教育活動を記録でき、場面の記録や実習生の気づきの記載も十分である。	時系列で具体的に教育活動を記録でき、実習生の気づきの記載もある。	時系列に教育活動を記録できるが、具体性や気づきが薄い。	指導や助言を受けて日誌を提出するが、記録すべき内容が記載されていない。	日誌の記載が不十分であり、指導や助言を受け入れられない。

評価方法

実習校の評価および実習日誌により厳正に評価を行なう。

テキスト

・石橋裕子・梅澤実・林幸範編著『小学校教育実習ガイド（第２版）』（事前指導で使用）
・学習指導要領解説など大学で使用したもの及び実習先で指定のもの
・教育実習日誌(小学校)

教育実習Ⅱ（小学校）　～より良い教師になるということ～	こども学科専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	－	2	選択	－	必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

・小学校における教科指導や特別活動等を観察し、多様な指導内容や方法について理解する。
・児童の身体的・知的・社会的発達の特性を知り、学校での生活のリズムを捉える。
・授業設計や指導案作成、授業実践等を実施することにより、児童の発達に合わせた指導内容や指導法を学ぶ。
・実習校の学校目標・沿革・児童数・地域・施設設備等の特徴を把握し、学校運営における 教師の任務や役割等について理解を深める。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション(1) 実習に参加の挨拶と学校説明を受ける。
第 2 回	オリエンテーション(2) 配属クラスの授業進捗状況と実習前準備について
第 3 回	実習初日のオリエンテーション、校長からの訓話、自己紹介
第 4 回	クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第 5 回	朝礼での全校生徒を前にした自己紹介。クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第 6 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 7 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 8 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 9 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 10 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 11 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 12 回	クラス活動への参加。研究授業。
第 13 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 14 回	クラス活動への参加。お別れ会など。
第 15 回	教育実習反省会。教師になるということについて再認識。

予習・復習

・予習：授業等の準備
・復習：実習日誌の作成

履修上の注意

実習は全出席するものであり、遅刻、早退は許されない。
また、社会通念から逸脱した行為があれば、実習の中止となる。

到 達 目 標

教科教育、道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動を通じて、小学校教育が道関連させて計画が立てられているか理解する。
実際に、学習指導案の作成ができるようになり、クラス運営ができるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（20%）	指導や助言を受け入れ、実習に積極的・主体的に取り組む。	指導や助言を受け入れ、実習に意欲的に取り組む。	指導や助言を受け入れ、努力する姿勢がみられる。	遅刻や欠席はないが、実習への取り組みが不十分である。	連絡のない欠席や遅刻をし、実習への意欲が感じられない。
教育活動の実践（30%）	指導案作成を含む準備が万全であり、責任感を持って児童の姿に配慮し臨機応変に教育活動を展開する。	指導案作成を含む準備が十分であり、責任感を持って子どもの姿に配慮して教育活動を展開する。	指導案を作成し、教師として責任感をもって子どもの姿に配慮して教育活動を展開する。	指導案を作成し教育活動を展開するものの、準備不足や柔軟性に課題がみられる。	指導案を含む準備が不十分で、教育活動の展開に困難を伴う。
児童理解（20%）	年齢ごとの発達を理解し、実際の児童の姿からそれを確認できる。	児童の興味や関心を理解し、教育活動につなげることができる。	児童の姿を観察し、幼児の興味や関心を理解する。	観察が不足し、児童の興味や関心への理解が不十分である。	児童への理解が不足し、幼児に対する興味・関心が薄い。
学校についての理解（10%）	教育理念や教師の役割を理解し、積極的・主体的に学ぶことができる。	教育理念や教師の役割を理解し、意欲的に学ぶことができる。	教育理念や教師の役割について学ぶ姿勢がみられる。	教育理念や教師の役割についての学びが不十分である。	学校の理念や役割への理解が薄い。
実習の記録（20%）	時系列で具体的に教育活動を記録でき、場面の記録や実習生の気づきの記載も十分である。	時系列で具体的に教育活動を記録でき、実習生の気づきの記載もある。	時系列に教育活動を記録できるが、具体性や気づきが薄い。	指導や助言を受けて日誌を提出するが、記録すべき内容が記載されていない。	日誌の記載が不十分であり、指導や助言を受け入れられない。

評価方法

実習校の評価および実習日誌により厳正に評価を行なう。

テキスト

・石橋裕子・梅澤実・林幸範編著『小学校教育実習ガイド（第２版）』（事前指導で使用）
・学習指導要領解説など大学で使用したもの及び実習先で指定のもの
・教育実習日誌(小学校)

保育実習指導Ⅰ（事前事後）～有意義な実習を行うために～	宮澤･岩崎・小林・西内・大多和・一色

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習における実習を円滑に進め学習効果を上げるために、実習生に必要な知識やスキルについての実習事前事後指導を行う。また、保育士の実務経験に基づき実習園の概要を把握し、実習への意欲を高めながら自己の課題を明確にし、効果的な保育実習の実施を目指し事前指導を行う。

実習終了後には、実習成果報告会を行い個々に実習での経験を整理するとともに、受講生が互いに学び合える場を設けるなど、保育実習Ⅲ・Ⅳに向けて自己課題を明確にするための事後指導を行う。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	【事前指導】保育実習の概要と事前事後指導の流れ
第 2 回	実習生としてのマナーと心構え
第 3 回	保育所の生活と社会的役割
第 4 回	課題を明確にして保育実習に取り組むために
第 5 回	実習日誌の書き方①記録の意義、記入上の諸注意
第 6 回	実習日誌の書き方②記録の取り方、記入の仕方
第 7 回	実習日誌の書き方③記録の取り方、記入の実際（ワーク）
第 8 回	実習先事前訪問（オリエンテーション）について
第 9 回	実習目標と課題の立て方
第 10 回	３歳未満児のデイリープログラムと実習日誌の書き方
第 11 回	指導案の作成①指導案を作成する意味と指導案の書き方
第 12 回	指導案の作成②実際に指導案を作成する
第 13 回	実習直前オリエンテーション
第 14 回	【事後指導】実習成果発表会
第 15 回	保育実習Ⅲ・Ⅳに向けての課題

予習・復習

・予習：①次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える。
　　②自己の課題を明確にして実習に臨む。
・復習：①課題を完成させ、期日内に提出できるように自主的に準備を進める。
　　②実習終了後には、実習成果報告会に向けて実習における自己の学びをまとめる。

履修上の注意

事前指導は、欠席が 2 割を超えた場合、実習を実施できない（講義要項 p.1 および p.16 参照）　・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること

到 達 目 標

実習に関するマナーを理解するとともに、子どもの生活や遊びにおける関心をもって実習に臨む　・子どもの発達過程を理解し、実習に臨む　・実習日誌の意義・記入上の諸注意を理解し、日誌に具体的な記述ができるようになり実習に臨む　・期日を守り提出物や実習の手続きを自主的に進められる　・保育実習Ⅰを振り返り、保育実習Ⅲ・Ⅳの課題を明確にできる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を十分理解し、授業内容を越えた自主的な学習ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
課題解決能力（40%）	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。また、関連する事柄について自主的な学習ができる。	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。	提示された課題と内容にずれがある、または、課題に不足がある。	提示された課題と内容があっていない。	課題を作成することができていない。
実習体験を論理的に文章で説明する力（10%）	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的かつ発展的に文章にすることができる。	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的に文章にすることができる。	実習体験を論理的に文章にすることはできているが、論理性に不足が見られる。	実習体験を文章にすることはできているが、論理的ではない。	実習体験を文章で説明することができていない。

評価方法

授業態度、課題の内容とその提出状況等により、総合的に評価する。

テキスト

・『実習日誌・実習指導案　パーフェクトガイド』わかば社，2017 年（ISBN：4907270155）
・「実習のてびき」（川口短期大学より配布）
・厚生労働省編『保育所保育指針解説』(平成 29 年度告示) フレーベル館, 2018 年 3 月 (ISBN:457781448X)・

保育実習指導Ⅱ（事前事後）　～有意義な施設実習とするために～	井上・小山内・齊藤・佐藤・大多和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

実習を円滑に進め学習効果を上げるために、実習に必要な知識やスキルについての実習事前指導を行う。具体的には、実習施設における子ども・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、実習日誌の書き方、実習施設の特色等について指導を行う。また、現場職員を講師に招き、施設理解を深められるようにする。実習終了後には、実習先の講評や実習日誌、自己評価、実習成果報告会等を通して、実習のまとめと振り返りを行い、保育士としての目標、自己の課題が明確になるよう事後指導を行う。

授業は、特別支援学校での勤務経験を反映させて実施する。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	【事前指導】	保育実習Ⅱ（施設）の概要と意義、目的／実習事前事後指導の流れ
第 2 回		施設の理解（施設の目的、利用児・者の理解、支援者の役割）(1) 児童養護施設
第 3 回		施設の理解（施設の目的、利用児・者の理解、支援者の役割）(2) 福祉型障害児入所施設
第 4 回		施設の理解（施設の目的、利用児・者の理解、支援者の役割）(3) 医療型障害児入所施設
第 5 回		施設の理解（施設の目的、利用児・者の理解、支援者の役割）(4) 障害者入所施設
第 6 回		実習に向けた心構えと施設実習の実際（先輩の体験談を聞く※）
第 7 回		支援の技法を学ぶ（障害児・者を対象としたレクリエーション活動や自立活動）
第 8 回		実習施設について知る／実習日誌の書き方（1）実習施設の概要
第 9 回		施設の生活と支援の実際（1）（現場職員の方の話を聞く※）
第 10 回		実習日誌の書き方（2）施設での日々の記録を書くために
第 11 回		施設の生活と支援の実際（2）（現場職員の方の話を聞く※）
第 12 回		実習の課題・毎日の課題の意義と立て方 実習日誌の書き方（3）施設での場面記録を書くために
第 13 回		実習における諸注意と事前の自己チェック
第 14 回	【事後指導】	実習成果発表会
第 15 回		保育実習Ⅲ・Ⅳに向けての課題

※の回は、講師の都合等により、回数・日程は変更の可能性がある。

予習・復習

・予習：①次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える。
　　②自己の課題を明確にして実習に臨む。
・復習：①課題を完成させ、期日内に提出できるように自主的に準備を進める。
　　②実習終了後には、実習成果報告会に向けて実習における自己の学びをまとめる。

履修上の注意

・事前指導（13 回）の欠席が 2 割を超えた場合、実習はできない。
・川口短期大学「実習のてびき」と教科書は毎回持参すること。

到 達 目 標

・人権を理解し尊重する態度を身につけて実習に臨む。
・施設の役割と社会的な位置づけ、施設の現状（生活、職員の役割）を理解して実習に臨む。
・観察することの意味を理解して実習に臨む。
・記録の取り方・記入の仕方を理解して実習に臨む。
・期日を守り、提出物や実習の手続きを自主的に進められる。
・保育実習Ⅱを振り返り、保育実習Ⅲ・Ⅳの課題を明確にできる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度・実習に向けた準備（30%）	授業内容を十分理解し、授業内容を越えた自主的な学習や準備ができる。	授業内容を十分理解し、実習に向けた準備ができている。	授業内容を理解できていない部分があり、実習に向けた準備が不十分である。	授業内容をほとんど理解できておらず、実習に向けた準備もほとんどできていない。	授業内容を理解できておらず、実習に向けた準備も全くできていない。
課題解決及び発表能力（40%）	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。また、関連する事柄について自主的な学習ができる。	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。	資料を調べたり参照したりすることができず、提示された課題と内容にずれがある、または、課題に不足がある。	資料を調べたり参照したりすることができず、提示された課題と内容があっていない。	課題を作成することができていない。
授業に対する積極性（10%）	授業内での学習に積極的に取り組み、自主的な学習や準備につなげることができる。	授業内での学習に積極的に取り組むことができる。	授業内での学習への取り組みがやや消極的である。	授業内での学習への取り組みが消極的である。	授業内での学習に取り組む姿がみられない。
実習体験を論理的に文章で説明する力（10%）	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的かつ発展的に文章にすることができる。	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的に文章にすることができる。	実習体験を論理的に文章にすることはできているが、論理性に不足が見られる。	実習体験を文章にすることはできているが、論理的ではない。	実習体験を文章で説明することができていない。

評価方法

授業態度、課題の内容とその提出状況等により、総合的に評価する。

テキスト

・守巧他著『改訂版　施設実習パーフェクトガイド』わかば社，2023 年（ISBN：4907270429）
・「実習のてびき」（川口短期大学より配布）
・厚生労働省編『保育所保育指針解説』（平成 29 年度告示）フレーベル館，2018 年 3 月（ISBN:457781448X）

保育実習Ⅰ（保育所） ～保育所の機能・子ども理解に向けて～	専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	－	2	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

実際に保育所の生活を体験する中で、保育所の機能、保育所での乳幼児の生活とその流れ、保育士の職務・役割、「養護」と「教育」を一体として行う保育所保育の基本等について理解できるように指導する

授業計画

(1) 実習期間
2025年2月・3月の間の2週間、90時間以上の実習を行う（実習園により日程が異なる）。
(2) 実習内容
①観察・参加実習を中心とし、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する
②各実習園のご指導の下、部分実習を行う

予習・復習

予習：①実習先事前訪問にもとづき、実習園の概要理解に努める
②保育実習事前指導を受け準備学習をする。 実習の目標を定め、実習日誌に記載する
③実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める
復習：実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める・

履修上の注意

(1) 保育実習Ⅰを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること
②「保育実習指導Ⅰ(事前事後)」の授業に原則全出席していること
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
④「保育実習指導Ⅰ(事前事後)」の到達目標に達していること
(2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
保育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到達目標

1. **実習生の姿勢・態度**
・保育実習に関するマナーを学ぶ
・安全に配慮できる
・子どもの生活や遊びにおける関心を高める
2. **知識および技能**
・デイリープログラムを理解する（子どもの一日と保育者の一日を理解する）
・信頼関係を築くための技能を身につける
・子どもの発達過程を理解する
3. **実習日誌**
・実習日誌の意義・記入上の諸注意について理解する
・記録のとり方・記入の仕方を学ぶ
4. **指導案**
・指導案とは何かを知る
5. **手続きと提出物**
・期日を守り、自主的に進められる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（40%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
保育の知識・技能（50%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
実習日誌（10%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。

評価方法

実習園による評価（評価観点：実習態度・保育所理解・幼児理解）及び実習日誌を、総合して評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる

テキスト

特になし

保育実習Ⅱ（施設）　～施設保育士の役割と子ども・利用者援助理解について～	専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	－	2	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

施設での生活や療育を実際に体験する中で、施設の機能や施設での生活と流れを知り、子ども・利用者を理解し、援助の仕方や方法、施設保育士の職務等について理解できるよう指導する。

授 業 計 画

（1）実習期間実習時間
2025 年 2 月・3 月の間の 12 日間、実習を行う（実習施設により日程が異なる）。
（2）実習内容
観察・参加実習を中心とする（実習施設によっては部分実習を行う場合がある）。

予 習 ・ 復 習

・予習　① 実習先への事前訪問にもとづき、施設の概要理解に努める。
② 保育実習事前指導を受講し、実習の目標を定め、実習日誌に記載する。
③ 実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める。
・復習　実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。

履修上の注意

（1）保育実習Ⅱを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること。
②「保育実習指導Ⅱ(事前事後)」の授業に原則全て出席していること。
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること。
④「保育実習指導Ⅱ(事前事後)」の到達目標に達していること。
（2）保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。保育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到 達 目 標

1. 実習生の姿勢・態度
・人権を理解し尊重する態度を身につける。
・施設実習を通し自己の成長を目指す。
・観察することの意味を理解して実践する。

2. 知識および技能
・信頼関係を築くための技能を身につける。
・施設の役割と社会的な位置づけを知る。
・施設の現状（生活、職員の役割）を理解する。

3. 実習日誌
・実習日誌の意義・記入上の諸注意について理解する。
・記録の取り方・記入の仕方を学ぶ。

4. 指導案
・部分実習の具体例を学ぶ。

5. 手続きと提出物
・期日を守り、自主的に進められる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（40%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
保育の知識・技能（50%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
実習日誌（10%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。

評価方法

施設による評価（実習態度、施設理解、施設保育士の職務理解等）および実習日誌の評価を総合して行う。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

なし

保育実習指導Ⅲ・Ⅳ（事前事後）　~実習の集大成として~

井上・関根・佐藤・岩﨑・宮澤・小林・西内

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習Ⅲ（保育所）・Ⅳ（施設）の意義、目的、方法などを学ぶとともに、保育実習Ⅰ（保育所）・Ⅱ（施設）において明確になった課題について、さらに学びを深められるよう実習事前指導を行う。また、子どもや利用者、保育士の役割と職務内容について理解を深め、保育士としての専門性や実践的知識を高めるため、責任実習の実施に向けた指導を行う。

事後指導では、実習先の講評や実習日誌、自己評価、実習反省会等を通して、実習のまとめと振り返りを行い、保育士としての新たな目標、自己の課題が明確になるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容	
	保育実習Ⅲ（保育所）	保育実習Ⅳ（施設）
	【事前指導】	
第 1 回	実習事前事後指導の流れについて	実習事前事後指導の流れについて
第 2 回	保育実習Ⅲ（保育所）の目的と意義	保育実習Ⅳ（施設）の目的と意義
第 3 回	実習先事前訪問について	実習先事前訪問について
第 4 回	課題を明確にして保育実習に取り組むために	課題を明確にして保育実習に取り組むために
第 5 回	実習日誌とその活用（1）	実習日誌とその活用（1）
第 6 回	実習日誌とその活用（2）	実習日誌とその活用（2）
第 7 回	指導案の作成（1）	施設の役割と現状
第 8 回	指導案の作成（2）	実習課題と実習日誌の書き方（1）
第 9 回	模擬保育（1）	実習課題と実習日誌の書き方（2）
第 10 回	模擬保育（2）	指導案の作成
第 11 回	模擬保育（3）	施設見学①
第 12 回	模擬保育（4）	施設見学②
第 13 回	実習における諸注意と事前の自己チェック	実習における諸注意と事前の自己チェック
	【事後指導】	
第 14 回	実習の総括と自己評価① レポート作成	実習の総括と自己評価① レポート作成
第 15 回	実習の総括と自己評価② グループワーク	実習の総括と自己評価② グループワーク

予習・復習

（1）予習　①次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える。
　　②実習先事前訪問にもとづき、自己の課題を明確にして実習に臨む。

（2）復習　①課題を完成させ、期日内に提出できるように計画的に準備を進める。
　　②実習終了後には、実習成果報告会に向けて実習における自己の学びをまとめる。

履修上の注意

・事前指導は、欠席が 2 割を超えた場合、実習を実施できない。
・川口短期大学「実習のてびき」と教科書は毎回持参すること。
・保育実習指導Ⅳでは、学外授業を行う予定である。

到 達 目 標

・園や施設の方針を理解したうえで、保育者の関わりを基に適切に行動できるようになり実習に臨む。
・生活・遊びを促すための教材研究や援助の仕方を理解して実習に臨む。
・記録のとり方・記入の仕方を理解して実習に臨む。
・指導案を書く意味を理解し、指導案を保育実習につなげることができる。
・期日を守り提出物や実習の手続きを計画的に進められる。
・保育実習Ⅲ・Ⅳを振り返り、今後の課題を明確にできる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を十分理解し、授業内容を越えた自主的な学習ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
課題解決能力（40%）	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。また、関連する事柄について自主的な学習ができる。	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。	提示された課題と内容にずれがある、または、課題に不足がある。	提示された課題と内容があっていない。	課題を作成することができていない。
実習体験を論理的に文章で説明する力（10%）	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的かつ発展的に文章にすることができる。	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的に文章にすることができる。	実習体験を論理的に文章にすることはできているが、論理性に不足が見られる。	実習体験を文章にすることはできているが、論理的ではない。	実習体験を文章で説明することができていない。

評価方法

授業態度、課題の内容とその提出状況等により、総合的に評価する。

テキスト

・「実習のてびき」（川口短期大学より配布）
・厚生労働省編『保育所保育指針解説』(平成 29 年度告示) フレーベル館, 2018 年 3 月（ISBN:457781448X）
・Ⅲ：小櫃智子他編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社,2017 年（ISBN：4907270155）
・Ⅳ：守巧他著『施設実習パーフェクトガイド』わかば社, 2014 年（ISBN：4907270097）

保育実習Ⅲ（保育所）　～保育所理解および保育理解を深める～	井上・関根・佐藤・岩崎・宮澤・小林・西内

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	－	2	選択	－	－	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習Ⅰ（保育所）の学びを踏まえ、子どもとのかかわりを深めながら観察し、保育理念や保育課程を把握し、保育士の職務をより深く理解できるように指導する。また、修得した全教科の知識と技能を基礎として、総合的に実践する応用力を身に付けられるように指導する。

授業計画

(1) 実習期間と実習時間
2024年8月･9月の間の12日間、90時間以上の実習を行う（実習園によって日程が異なります）。
(2) 実習内容
実習園の指導のもと参加実習、指導実習（部分実習および責任実習）を行い、省察する。

予習・復習

(1) 予習　① 実習先事前訪問にもとづき、保育園の概要理解に努める
② 保育実習事前指導を受講し、実習の目標を定め、実習日誌に記載する
③ 実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める
(2) 復習　実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める

履修上の注意

(1) 保育実習Ⅲを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること
②「保育実習指導(事前事後)Ⅲ」の授業に原則全出席していること
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
④保育実習指導Ⅲ（事前事後）の到達目標に達していること
(2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
保育実習期間中の欠席は、原則として認められない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度
・園や施設の方針を理解したうえで、適切に行動できる。
・目標を明確にし、向上心をもって実践的な学びを積み上げることができる。
2. 知識および技能
・保育内容にふさわしい教材準備や環境構成ができる。
・生活・遊びを促すための援助ができる。
3. 実習日誌
・乳幼児とのかかわりから保育士の意図を感じ取り「学び」や「気づき」を書くことができる。
・実習生のかかわりを詳細に記録し、省察することができる。
・子どもの姿を場面で捉え、そこから「乳幼児理解」につなげていくことができる。
4. 指導案
・指導案を書く意味が分かり、指導案を保育実践につなげることができる。
・全日実習指導案の作成から実践につなげる。
5. 手続きと提出物
・期日を守り、計画的に進められる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（40%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
保育の知識・技能（50%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
実習日誌（10%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。

評価方法

実習園による評価（実習態度、保育所理解、幼児理解等）および実習日誌の評価を総合して行う。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

なし

保育実習Ⅳ(施設)　～児童福祉施設への理解を深め、実践力を高める～	専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	－	2	選択	－	－	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

保育実習Ⅱ(施設)の学びをふまえ、児童福祉施設(保育所を除く)、その他社会福祉施設における実践を通して、施設における子ども・利用者の生活を理解するとともに、保育士として必要な支援技術の向上を目指し指導する。

授 業 計 画

(1) 実習期間実習時間
2024年8月・9月の間の12日間の実習を行う（実習施設により日程は異なります)。
(2) 実習内容
観察・参加実習を中心とするが、施設の指導をもとに部分実習も行う。

予 習 ・ 復 習

(1) 予習　① 実習先事前訪問にもとづき、施設の概要理解に努める。
② 保育実習事前指導を受講し、実習の目標を定め、実習日誌に記載する。
③ 実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める。
(2) 復習　実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。

履修上の注意

(1) 保育実習Ⅳを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること。
②「保育実習指導(事前事後)Ⅳ」の授業に原則全出席していること。
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること。
④保育実習指導Ⅳ（事前事後）の到達目標に達していること。
(2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
保育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到 達 目 標

1. 実習生の姿勢・態度
・施設の方針を理解したうえで、保育者と子ども・利用者とのかかわり方を学び、適切に行動できる。
・保育者として学んだことを主体的に果たすことができる。
2. 知識および技能
・信頼関係を築くための技能を身につける。
・施設の役割と社会的な位置づけを知る。
・施設の現状（生活、職員の役割）を理解する。
3. 実習日誌
・子どもや利用者とのかかわりから保育者の意図を感じ取り、「学び」や「気づき」を書くことができる。
・「個」と「集団」の姿を記録できる。
・実習生のかかわりを詳細に記録し、省察することができる。
4. 指導案
・指導案を書く意味が分かり、指導案を実践につなげることができる。
5. 手続きと提出物
・期日を守り、計画的に進められる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（40%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
保育の知識・技能（50%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
実習日誌（10%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。

評価方法

施設による評価（実習態度、施設理解、施設保育士の職務理解等）および実習日誌の評価を総合して行う。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

なし

保育･教職実践演習（幼･小）～これまでの学びをふりかえる～	長沼･岩崎・小林・西内・大多和・藤田・一色

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	必修	必修	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

入学から２年次前期までに学んできた教員および保育士になるために必要な知識・技能について習得できているかを整理し、学びの確認を行う。免許・資格取得関連項目について、何をどう学んだか、学修評価表（かわたんシート）を通じて確認し、保育所をはじめとする各児童福祉施設、幼稚園および小学校について、分野ごとに、子ども理解、クラス経営、内容の指導法等に関するグループディスカッションなどを行っていく。

また、外部講師の講義を通して、広い視野に立って教育・福祉について指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	全体講義①外部講師の講義（先輩から学ぶ保育・教育の現場）
第 3 回	クラス別演習①
第 4 回	全体講義②外部講師の講義（保育所で働くということ）
第 5 回	クラス別演習②
第 6 回	全体講義③外部講師の講義（児童福祉施設で働くということ）
第 7 回	クラス別演習③
第 8 回	全体講義④外部講師の講義（幼稚園で働くということ）
第 9 回	クラス別演習④
第 10 回	全体講義⑤外部講師の講義（小学校で働くということ）
第 11 回	クラス別演習⑤
第 12 回	全体講義⑥ふりかえり
第 13 回	クラス別演習⑥
第 14 回	全体報告会
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：日頃から、情報メディアセンター（図書館）へ赴くなどして、教育・保育・福祉に関する書物に目を通しておく。

・復習：授業で学んだことをノートにまとめておき、随時確認する。

履修上の注意

すべての教育実習または保育実習を履修済みであることを履修の要件とする（教育実習または保育実習をすべて終えていない者は履修できない）。

原則として、すべての回の出席を求める。やむを得ない欠席については、必ず届け出ること。

クラス別演習は、２０～３０名程度のクラスを編制し、クラス別の授業を行う。履修クラスはガイダンスで提示する。

到 達 目 標

これまで大学で学んできた授業内容、および実習での活動について、学修評価表（かわたんシート） を通して全体の関係性を理解することができる。

また、自己の学修と他者の学修とをグループディスカッション等を通して比較し、教育・保育・福祉の多様性を理解することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
課題解決および発表能力（40%）	解決方法や発表の仕方が分からない他人へアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解き、発表することができる。	参考文献等を参照しながら課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができず発表することもできない。
授業への積極性（10%）	授業に積極的に取り組み、自主的な学習へつなげることができる。	授業に積極的に取り組むことができる。	授業への取り組みが、やや消極的である。	授業への取り組みが消極的である。	授業へ取り組む姿勢がみられない。
論理的に文章で説明する力（10%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

学期末レポート 70%
授業内レポート 20%
受講態度 10%

テキスト

教科書は使用しない。